

財団法人 東洋文庫年報

昭和 56 年度

財団法人 東洋文庫

財団法人 東洋文庫年報 昭和56年度

目 次

I 昭和56年度の東洋文庫	3
II 図書事業	5
1. 図書資料の収集	5
2. 図書資料の保存整理	6
3. 図書資料の閲覧	6
4. 資料複製増刷サービス	7
III 研究事業	8
1. 調査研究	8
i 文部省科学研究費による調査研究	8
ii 一般調査研究	11
iii 特別調査研究	14
iv 研究委員会	15
2. 学術図書出版	17
3. 講演会	18
4. 展示会	19
5. 研究会	19
6. 研究者養成	19
7. 国内・国外研究者への便宜供与	19
i 国内研究者の受入	20
ii 外国人研究者の受入	20

iii 外国人・外国人研究者への便宜供与	20
8. 職員の研究業績	24
IV 業 務 報 告	39
1. 庶 務 報 告	39
2. 人 事 報 告	41
3. 会 計 報 告	43
V 役 職 員 名 簿	55
1. 役 員	55
2. 東洋学連絡委員会委員	57
3. 名 誉 研 究 員	58
4. 職 員	58
5. 臨 時 職 員	61
VI 東洋文庫維持会	65
VII 財団法人東洋文庫附置	
ユネスコ東アジア文化研究センター事業	67
1. 調 査 研 究 事 業	67
2. 学術交流及び普及, ドキュメンテーション活動	71
3. 出 版 物 の 作 成	75
4. 業 務 報 告	78
5. 役 職 員 名 簿	80

I 昭和 56 年度の東洋文庫

昭和 56 年度における最も重要な事項は東洋文庫がその敷地の半分弱を売却して、その代金から売却によって生ずる建物の面積の不足を補うための新建造物増設に要する費用を控除した残金を基本金に加え、その運営費の一部を補おうとしたことである。予定される基本金の増加は 4 億円。これから期待される増収は年 3 千 2 百万円前後である。

戦前南満洲鉄道株式会社の株券に換えられていた基本金 2 百万円が敗戦の結果一朝にして雲散霧消したにも拘らず、東洋文庫は、内外官民の温い援助によって不十分ながらその運営を続けることが出来た。殊に戦後の数年貿易が杜絶して海外からの書籍の輸入が頗る困難であった時、戦争中の刊行物の蓄積を利用して、海外の研究機関・書肆・個人と交換を行い、国内及び国外の研究者の不便を若干緩和出来たことは、東洋文庫がその本来の使命の一端を果たしたものとして、関係者のひそかに喜びとしたところである。

しかるに、その後は経済大国に発展した日本全体の華かな景況とは裏腹に、東洋文庫は物価の高騰と人件費の異常な上昇とに圧倒せられ、朝に出版物の種類と数量とを減らし、夕に購入する図書の予算を削り、昼間は書庫・研究室の雨漏の防止に右往左往することを余儀なくされるに至った。

財団法人東洋文庫の予算は、文部省を通じて出される日本政府からの補助金、民間の寄附、東洋文庫自身の収入（資料の複写、出版物の販売等）の 3 種類の財源を基礎に組まれているが、経済界が相つぐショックによって生産の上昇を鈍らせると、緊縮財政を標榜する政府は必ず補助金の縮少を政策の第一に掲げて、我々の心胆を寒からしめ、民間も亦袖無きは振らんとするも能わずとその寄附の継続に難色を示し、研究者も亦史料の複写、出版物の購入を手控えるに至った。その結果、ここ 3、4 年来、収入はいよいよ減じて経営は逼迫し、何とか起死回生の妙案を得て、狂瀾を既倒に廻らす術もがなと、千々に心を摧く日々を迎えることになったのである。

紀元前一世紀の後半、漢の武帝の制定した塩鉄の専売その他の新経済制度の存続をめぐって文学賢良と総称される儒教主義の人々と中央政府の財政担当の官僚を中心とする実務派の人々とが討論を行ったことは、その記録塩鉄論に詳しい。東洋文庫を運営し、或いは利用して来た人々は何とか東洋文庫がこれまでと同じ研究図書館

として継続することが望ましいとし、外部からの寄附を20年以上以前に決められた1口5万円からその10倍の50万円に上げてでも今の時世としては妥当を欠くことはあるまいと、寄附の増額を主張した。これに対し外部にあってこれまで赤字の補填に厚意ある協力を続けて来た実業界の人々は、我々は東洋文庫以外にも多くの寄附を求められているもので、到底そんな要求には応ぜられない、東洋文庫が今後も我々の財政的援助を期待するのであれば、まず東洋文庫自身何等かのドラスティックな手を打った上で、それでも不足だからと応援を求めるべきであるとした。東洋文庫側の要求は、塩鉄論の実務派の主張と酷似した性格のものであるが、実業界の人々の身を殺して仁を求めよという主張には文学賢良の論調を思わせるものがある。時世は正に逆転した観がある。

漢政府は文学賢良の議に従って酒の政府専売を罷めた。東洋文庫の場合でも文学賢良的な実業家の主張がリードしたのである。そしてその主張において実務的であった東洋文庫側は、実業家の文学賢良の主張に従うことによって、将来における後者の援助継続約束をとりつけたのである。

改築等の一切が終って、東洋文庫が今の敷地の半分に新しい出発をするのは、昭和58年の後半のことになる。しかし人件費や物価の高騰、新建築の維持経営に要する費用は、将来ますます上昇することであろうから、仮に当初に予定していた4億円の基金の増加が実現するとしても、それから生ずる果実だけを加えたのでは、到底すべてを現在の規模においても賄い得ると思われない。現在以上の民間からの寄附が切に期待されるのはこのためである。

東洋文庫は成るほど民間の一研究機関である。しかし戦前戦後を通じてそれが内外の学界に果して来た役割は大きい。それは東洋学の部門において日本を代表する機関の一つである。これを維持し、これを一層充実させて行くことこそ学術日本の権威と声価とを低下せしめない所以である。

東洋文庫の今日あるは、白鳥庫吉博士を始めとする関係の人々の熱意と努力との賜である。白鳥博士と博士に連なる人々とは、自分達は世界をリードする研究をしているのだという意気込みで努力して来られたのである。「自分は世界をリードする研究をしているのである。」我々はこの意気込みを忘れてはならない。

白鳥博士を始とする人々が勉強せられた建物は間もなくすべて取壊されるであろう。しかし我々は白鳥博士らが学問の世界に築かれた金字塔を一層輝しいものにして行かなければならない。東洋文庫の敷地の縮少を事業の縮少たらしめるべきではない。我々はそのに新しい発展を目指した新しい出発を期待しよう。

Ⅱ 図 書 事 業

1. 図書資料の収集

購入・交換・受贈によって収集した資料は、一般文献資料のほか、特に中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料があり、昭和56年度末現在の蔵書数は622,315冊となった。

・ 資 料 購 入

	和 漢 書	洋 書	計
一 般 文 献 資 料	61	252	313
中央アジア特別研究資料	0	457	457
東アジア特別研究資料	1,503	396	1,899
西アジア特別研究資料	0	553	553
計	1,564	1,658	3,222

・ 資 料 交 換

	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋 書	計	国 内	国 外	計
単 行 本(冊)	1,277	962	2,239	1,030	519	1,549
定期刊行物(冊)	4,763	1,142	5,905	335	173	508
計	6,040	2,104	8,144冊	1,365	692	2,057冊

2. 図書資料の保存整理

・製本数量

本年度の製本施工数量は下記の通りである。

区 分	単行本	定期刊行物	複写資料製本	複写資料製帙	その他
数 量	131 冊	1,015 冊	1,164 冊	177 帙	834 冊

・撮影・焼付

区 分	撮影コマ数	焼付引伸数	ポジ・フィルム作成
数 量(冊)	12,594 駒	34,434 枚	0

3. 図書資料の閲覧

・図書利用状況

本年度の所蔵図書の利用ならびに内訳は次の通りであった。

月	開館 日数	閲覧 者数	一日 平均	昨年同月 との比 (△印は減)	閲覧 図書数	一日 平均	昨年同月 との比 (△印は減)
	日	人	人	人	冊	冊	冊
4	24	285	12弱	△ 39	3,355	140弱	△ 1,095
5	23	431	19弱	69	6,532	284	2,160
6	25	435	18弱	91	5,071	203弱	1,249
7	26	471	15弱	△ 88	5,771	222弱	△ 2,331
8	25	557	22強	83	10,436	418弱	1,831
9	23	448	20弱	36	5,775	251強	△ 519
10	25	455	19弱	59	7,411	297弱	659
11	21	385	18弱	△ 45	7,298	329弱	1,538
12	22	349	16弱	△ 16	4,644	211強	△ 335
1	21	232	11強	△ 26	3,359	160弱	175
2	22	263	12弱	19	3,059	139強	105
3	25	327	12弱	32	5,712	229弱	1,316
計	282	4,636			68,423		

・ 閱 覧 図 書 数 内 訳

月	和 書		漢 書		洋 書		合 計	
	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数	部 数	冊 数
4	239	514	466	2,602	148	239	853	3,355
5	397	656	799	5,387	272	489	1,468	6,532
6	359	642	716	3,842	324	587	1,399	5,071
7	216	445	938	4,722	316	604	1,470	5,771
8	379	598	1,402	9,118	308	720	2,089	10,436
9	288	545	931	4,922	196	308	1,415	5,775
10	326	446	1,084	6,456	279	509	1,689	7,411
11	236	720	1,008	6,082	264	496	1,508	7,298
12	248	595	681	3,618	273	431	1,202	4,644
1	139	248	443	2,761	142	350	724	3,359
2	312	394	454	2,381	161	284	927	3,059
3	289	598	709	4,736	162	378	1,160	5,712
計	3,428	6,401	9,631	56,627	2,845	5,395	15,904	68,423

4. 資料複製増刷サービス

国内外の研究者・研究機関の閲覧・利用の便に供するために行なったもので、実績は下記の通りであった。

・ マイクロ・フィルム

申 込 件 数	撮 影 駒 数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
845 件	111,794 駒	113,924 枚	68,646 駒

・ 電子複写

申 込 件 数	撮 影 枚 数
1,687 件	117,761 枚

Ⅲ 研 究 事 業

1. 調 査 研 究

調査研究は、文部省科学研究費補助金によるものと、文部省補助金による一般・特別調査研究とにわかれる。

ⅰ 文部省科学研究費による調査研究

一 般 研 究 (A)

【課題】 南アジア史研究資料の基礎的研究

【期間】 昭和 56 年度（2ヶ年継続事業最終年度）

【目的】 第二次世界大戦後、我が国の南アジア史研究は、急速な進歩をとげ、それに伴い国内の大学図書館や研究機関に多数の南アジア関係文献が収められるに至っている。しかし、それらの文献収集は、しばしば特定分野に傾ったものであり、必ずしも網羅的なものとはいえない。今日、我が国の南アジア研究者の間で、個別的研究の枠を超えた総合的な研究の必要性が叫ばれている。こうした総合的な南アジア研究のために、また今後いよいよ数を増すと思われる研究者への便宜のために、南アジア史研究の基本資料を調査し、網羅的に収集すること、更に資料に関する情報センターを置くことは、極めて有意義といえよう。財団法人東洋文庫は、南アジアの各時代・各分野を専攻する研究員を擁するユニークな研究機関であり、最も充実した南アジア研究資料を収蔵した機関である。本研究の目的は、当文庫のこれら研究員を動員して、南アジア史研究の基本資料を調査・収集すること、及びその成果の公開により我が国の南アジア研究の進歩に貢献する

ことにある。

【事業】 前年度に引続き、次の活動を行った。

- (1) 各研究分担者は、分担の研究分野において、基本的資料の調査・選択を行った。
- (2) 随時、研究会を開き、調査した研究の成果を持ち寄り、相互に検討した。
- (3) 基本資料は可能なかぎり収集整理し、収集不可能なものは、国内外の研究機関に連絡をとり、その所在を確かめた。
- (4) 2ヶ年継続事業の最終年度に当るため、研究成果を報告書の形にまとめ、専門研究者の利用に供するよう公開した。

【代表者】 榎 一 雄

【分担者】 統 括： 榎 一雄

古代班： 原 實，山崎元一，松壽誠達

中世班： 護 雅夫，荒 松雄，川崎信定

近世班： 山本達郎，生田 滋

総 合 研 究 (A)

【課題】 中東諸国における伝統と変革 — その基礎的研究

【期間】 昭和56年度(1年度限り)

【目的】 本研究は、従来ほとんど我が国に将来されていなかったアラブ、トルコ、イラン等中東諸国発行の新聞、雑誌、その他の定期刊行物などの第一次資料を体系的に蒐集し、これを用いて、今まで世界においても、日本においても、各国別あるいは各地域別にしか研究がなされていなかった中東地域の横のつながりに注意しながら、「伝統と変革」という共通のテーマに沿って、(1)アラブ、トルコ、イラン地域における民族主義思想の発展。(2)同上地域における伝統的社会的変容。(3)同上地域における伝統的価値観と西

欧的価値観との対立と受容。という諸問題について相互に比較研究を行い、中東地域の統一性と多様性を明らかにすることを目的とするものである。

- 【事業】 (1) 我が国における中東関係文献の総合的調査と整理を行った。
- (2) 本研究計画テーマに関する外国の研究及び出版状況の調査と整理を行った。
- (3) 研究目的達成のための文献的基礎的条件を整えるために、まず、現在、我が国に将来されていない現地語資料、即ち、アラビア語、トルコ語、ペルシャ語による新聞、雑誌、定期刊行物その他を図書資料及びマイクロフィルムで蒐集する。中東地域の現今の政治情勢を考慮し、これらの資料は主として欧米の図書館、大学等が収蔵しているものから蒐集した。
- (4) 研究分担者相互の情報交換、研究成果の比較を行うための研究会を開催した。
- (5) 蒐集した資料の整理、分類、カード化を行い、総合目録を作成した。

【代表者】 志 茂 碩 敏

【分担者】 イラン班 : 志茂碩敏, 本田實信, 坂本 勉
トルコ班 : 護 雅夫, 小山皓一郎, 永田雄三
アラブ班 : 後藤 明, 佐藤次高, 花田宇秋

研 究 成 果 刊 行 費・不定期に刊行する二次刊行物

【書名】 『「解放日報」記事目録Ⅳ — 附人名索引 —』
(B5判 1冊 620頁)

【編集】 東洋文庫近代中国研究委員会

【目的】 『解放日報』は、1941年5月から1947年2月(1~2081号)まで延安で発行された、中国共産党の機関紙であって、当時の中国共産党研究には欠くことの出来ない基本的な資料である。したがって、東洋文庫では、さきに、その国内問題に関する記事目録を刊行して学界の便に供した。その外国関係の記事も、当時の中国共産党の外国に対する態度、外国との関

係を知るのに不可欠の資料である。そこで当文庫ではさきの「中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究」の研究過程において外国関係記事目録を作成した。本書は、この記事目録に人名索引を併せたものであって、これが中国共産党史の研究に大いに裨益することは、論をまたない。

【事業】 本書は、記事目録と人名索引の2部から成る。

(1) 本文：外国関係記事目録

すでに述べたように一般研究A「中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究」の研究過程においてカード化した記事の数は、30,095 となった。これを日を逐うて掲げ、記事に通し番号をつけたものが記事目録である。

(2) 付録：人名索引

記事の見出しの中だけでも、実に多数の人名が含まれている。記事の見出しをカード化したのち、さらに人名だけを抽出した。スターリン、ルーズベルトら当時の指導者も含め約 1,600 人である。これらの人名から関係記事を検索することの便を考えてまとめたのが、この人名索引である。その際、中国語で表記された外国人名にはできる限り原綴を併記した。

Ⅱ 一般調査研究

本年度は、特に、東亜考古学研究委員会、中央アジア・イスラム研究委員会を中心に調査研究を行った。

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】 梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真、実測図、拓本、野帖等）の整理とその目録の作成。（特に、日本の部、中国の部の青銅器資料の整理とその目録の作成を行う。）（編集済）（前年度の継続）

古代史研究委員会

【資料の整理】 東洋文庫所蔵中国画像名，造像名，墓碑銘等拓本の研究整理。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】 (1) 国内国外に現存する西域出土古文書の所在調査と，マイクロ・フィルムによるその収集・整理。

(2) 内外の諸機関，研究者に対する既収集敦煌文献資料の公開，情報の提供。

(3) 内陸アジア出土古文献研究会の開催。（以上，前年度の継続）

第1回 4月11日（土） 山本達郎「敦煌における均田制枠外の田土の存在について」

第2回 7月18日（土） 土肥義和「大英図書館所蔵未紹介敦煌文書数種」

第3回 9月19日（土） 福井文雅「敦煌本般若心経の諸相」

第4回 11月21日（土） 川崎ミチコ「敦煌本十二時の現存資料について」

第5回 1月9日（土） 池田 温「北京におけるトルフェン文書整理研究の現状」

今枝由郎「敦煌文献 Pelliot・Tibetan №

1291『戦国策』について」

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究及び情報活動】 (1) 宋代研究文献目録及び速報の作成。

(2) 『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の編集・刊行。（人名・書名の項，刊行済）（以上，前年度の継続）

明代史研究委員会

【講読・研究】 『惠安政書』を主として，明代社会制度に関する文献の講読・研究。（毎月2回研究の開催）（以上，前年度の継続）

近代日本研究委員会

【資料の収集・研究】 近代化過程における欧米列強と東アジア乃至日本との国際関係，および近代日本と大陸諸民族との国際関係について，国際政治のみならず，

国際経済の資料をも収集し、これらの世界史的性格を総合的に研究する。

清代史（満州・蒙古）研究委員会

- 【校訂本・訳註の作成】 (1) 「旧満州檔」・「満文老檔」記事対照表の作成。
(2) 「年羹堯奏摺」満文の訳注。
(3) 『東洋文庫所蔵鑲紅旗檔 — 乾隆朝』の編集・刊行。（編集済）（以上、前年度の継続）

朝鮮研究委員会

- 【資料の整理・研究】 (1) 李氏朝鮮の法制・民政関係史料の整理・講読・研究。
（毎週研究会の開催）
(2) 漢字の朝鮮音韻の調査・研究。（以上、前年度の継続）

中央アジア・イスラム研究委員会

- 【資料の収集・研究】 (1) 東洋文庫所蔵ペルシャ語、トルコ語、オスマン語関係資料の整理及びその関係書誌目録の作成。（ペルシャ語関係目録、刊行済）
(2) イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。（以上、前年度の継続）

- 第1回 4月24日（金） 山内昌之「ソ連邦における現代イスラム」
第2回 5月29日（金） 小牧昌平「近代イランの改革思想 — マルコム・ハーンを中心に —」
第3回 6月26日（金） 清水宏祐「オスマン朝以前のアナトリア」
第4回 10月2日（金） 設楽國廣「青年トルコ人革命とオスマン朝政府」
第5回 10月23日（金） 藤井守男「立憲革命とターレブーフ」
第6回 11月27日（金） 山本佳世子「15世紀のイスタンブール — メフナト2世の建設事業を中心として —」
第7回 12月11日（金） 永積 昭「メッカ巡礼をめぐる その1」
家島彦一
第8回 1月29日（金） 坂本 勉「メッカ巡礼をめぐる その2」
私市正年
第9回 3月27日（土） 磯崎定基「メッカ巡礼をめぐる その3」

- (3) 隊商貿易史の研究。
- (4) 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。
- (5) イスラム社会の構造の研究。
- (6) トルコ日本両国の近代化の比較研究。

南方史研究委員会

- 【資料の整理・研究】 (1) 東洋文庫所蔵南アジア史関係資料の整理・研究とその分類目録の編集・刊行。(インド関係目録(I), 刊行済)(以上, 前年度の継続)
- (2) インド古代社会に関するサンスクリット語・パーリー語・漢文資料をマイクロフィルム, その他によって網羅的に収集し, その調査, 分類を行う。

iii 特別調査研究

チベット特別調査研究(チベット研究委員会)

【目的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】

- (1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究
 - ①前年度に引続き, 「宗義大成」ゲルク派の章についてテキスト・邦訳を整備した。
 - ②前年度に引続き, 「宗義大成」ガギュ派の章について機械処理を完了し, 「語彙用例集」を作成した。
 - ③前年度に引続き, 「3世ダライラマ年代記」の機械処理を進めた。
 - ④「敦煌出土チベット年代記」のテキストを整備した。
- (2) チベット語関係文献の整理
- (3) 研究成果の刊行
 - ①『スタイン蒐集チベット語文献解題目録 — 第6分冊 —』 B5判 1冊 (刊行済)
 - ②『西藏仏教宗義研究 — 第3巻 —』 B5判 1冊 (刊行済)

(4) チベット学に関する研究会の開催

第1回 11月7日(土) 高崎直道「チョーマ・ド・ケーレシ記念シンポジウムから帰って」

近代中国特別調査研究(近代中国研究委員会)

【目的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究。

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究。

【事業内容】

(1) 共同利用研究

本年度は、上半期には Ohio 州立大学の S. C. Chu 教授と中国近代史研究全般について情報交換を行い、下半期には中国社会科学院歴史研究所の林 甘泉研究員と日中両国における中国近・現代史研究の現状について数度に亘って意見の交換を行った。

(2) 情報交換及び参考業務(近代中国研究事務室及び同参考図書室に於て、常時遂行)

(3) 図書・資料の収集

区 分	和 漢 書	洋 書
数 量	779 冊	113 冊

(4) 研究成果の刊行

①『近代中国研究彙報 第4号』 A5判 1冊 (刊行済)

(5) 中国共産党史資料「解報日報」記事目録の作成及びその他収集した近・現代中国関係資料の整理・研究。

(6) 清末外交文書月例研究会の開催。(以上、前年度の継続)

iv 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。昭和56年度の各研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

第1部 中国研究

東亜考古学：梅原末治，小山 勲，関野 雄，渡辺兼庸

古代史：越智重明，宇都木 章，神矢法子，河野六郎，渡辺兼庸

唐代史（敦煌文献）：榎 一雄，池田 温，菊池英夫，土肥義和，藤枝 晃
松本 明

宋代史：青山定雄，草野 靖，佐伯 富，斯波義信，周藤吉之，竺沙雅章
中嶋 敏，古垣光一，渡辺紘良

明代史：鈴木立子，田中正俊，鶴見尚弘，山名弘史，山根幸夫

近代中国：市古宙三，河鱒源治，滋賀秀三，田中正俊，坂野正高，本庄比佐子
山根幸夫

第2部 近代日本研究

近代日本：岩生成一，海野一隆，亀井 孝，酒井憲二，田中時彦，鳥海 靖

第3部 東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：榎 一雄，岡田英弘，神田信夫，松村 潤

朝鮮：河野六郎，末松保和，田川孝三，森岡 康

第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：榎 一雄，梅村 坦，後藤 明，佐藤次高，清水宏祐
志茂碩敏，永田雄三，花田宇秋，本田實信，森安孝夫
護 雅夫，山内昌之

チベット：榎 一雄，川崎信定，北村 甫，松濤誠達，山口瑞鳳
テンパ・ゲルツェン

第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄，生田 滋，岩生成一，榎 一雄，後藤均平，原 實
松本信広，三根谷 徹，山崎元一，山本達郎

2. 学 術 図 書 出 版

東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko.”

No. 39. 1981 年刊 B 5 判 142 頁

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』第 63 卷 1・2 号 昭和 56 年 12 月刊 A 5 判 238 頁

『東洋学報』第 63 卷 3・4 号 昭和 57 年 3 月刊 A 5 判 257 頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

宋代史研究委員会

『宋会要輯稿食貨索引 — 人名・書名篇 — 』 昭和 57 年 3 月刊 B 5 判 150 頁

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第 4 号 昭和 57 年 3 月刊 A 5 判 83 頁

チベット研究委員会

『スタイン収集チベット語文献解題目録』第 6 分冊 昭和 57 年 3 月刊 B 5 判 109 頁

『西藏仏教宗義研究 — トウカン「一切宗義」ニンマ派の章 — 』第三卷 昭和 57 年 3 月刊 B 5 判 223 頁

東洋文庫諸目録其他刊行物

『解放日報記事目録Ⅳ — 附人名索引 — 』（昭和 52・53・54 年度文部省科学研究費補助金一般研究（A）研究成果報告書） 昭和 57 年 2 月刊 B 5 判 620 頁

『東洋文庫新着図書目録 — 和書・中国書・朝鮮書 — 』第 29 号 （1980 年 4 月～1981 年 3 月） 昭和 56 年 9 月刊 B 5 判 74 頁

『財団法人東洋文庫書報』第 13 号 昭和 57 年 3 月刊 A 5 判 129 頁
『財団法人東洋文庫年報』昭和 55 年度版 昭和 56 年 10 月刊 A 5 判 77 頁
『財団法人東洋文庫所蔵南アジア関係図書分類目録 (I) 』(昭和 55・56 年度文
部省科学研究費補助金一般研究 (A) 研究成果報告書) 昭和 57 年 3 月刊 B 5
判 250 頁
『財団法人東洋文庫所蔵ペルシャ語関係図書分類目録』(昭和 56 年度文部省科学
研究費補助金総合研究 (A) 研究成果報告書) 昭和 57 年 3 月刊 B 5 判 428
頁

3. 講演会

春期 東洋学講座 (第 327 ~ 330 回)

(テーマ; 中国幣制の歴史的展開)

曾我部静雄 「中国の銅貨の変遷」(5月26日)

中嶋 敏 「中国史と銭の時代」(6月2日)

宮下 忠雄 「1933年の全国的廃兩改元について」(6月9日)

岩武 照彦 「抗日根拠地における通貨および通貨政策——晋察冀辺区および晋
冀魯豫辺区の実例——」(6月19日)

秋期 東洋学講座 (第 331 ~ 334 回)

(テーマ; 東アジア美術史の諸問題)

杉山二郎 「正倉院宝物の故地に関する考察」(10月20日)

上野アキ 「アスターナの出土遺品について」(10月27日)

長廣敏雄 「キジール千仏洞とグリュンヴェーデルの業績」(11月10日)

上野実朗 「敦煌壁画の植物について」(11月17日)

(なお、春秋二期の各講演の要旨は、『東洋文庫書報』第 13 号に掲載されて
いる。)

4. 展 示 会（東洋文庫新収図書の展示）

第 63 回 日 時：昭和 56 年 11 月 27 日（金）・28 日（土） 午前 10 時
～午後 4 時

場 所：東洋文庫講演室

展示書：洋書・辻直四郎博士旧蔵書， 和書・広瀬家所蔵本影印
漢籍・台湾公私蔵古文書影本， 特殊言語書・イスラム革命
時発行パンフレット類等

5. 研 究 会（東洋文庫談話会）

神矢法子 「漢——晋時代における喪服礼の規範的位相——礼・習俗・法——」
（6 月 27 日）

辻 星児 「『捷解新語』の原刊本と改修本——朝鮮語史の観点から——」（9
月 26 日）

池田 温 「北京におけるトルファン文書整理研究の現状」
今枝由郎 「敦煌文獻 Pelliot T. № 1291 『戦国策』について」 } （1 月 9 日）

草野 靖 「旧中国の分種慣行」（3 月 20 日）

（なお、この談話会の発表要旨は、『東洋文庫書報』第 13・14 号に掲載されて
いる。）

6. 研 究 者 養 成

中 国 研 究 山名弘史 「清代地主制の研究」

中 国 研 究 神矢法子 「漢唐間における家礼の規範的展開と礼俗」

西アジア研究 山内昌之 「トルコの近代社会とイスラム」

7. 国内・国外研究者への便宜供与

i 国内研究者の受入

日本学術振興会流動研究員 熊本大学教授 草野 靖 「宋代以降民国初期に
いたる租佃関係の展開」(昭和 56 年度 1 年間)

日本学術振興会流動研究員 岡山大学講師 辻 星児 「中期朝鮮語から現代
朝鮮語への変化過程の言語学的研究」(昭和 56 年度上
半期間)

日本学術振興会奨励研究員 森安孝夫 「ウイグル民族史及び
ウイグル語文献の研究」(昭和 56 年度 1 年間)

ii 外国人研究者の受入

Tenpa Gyaltsen 東洋文庫招聘研究員 (Gomang 寺ゲルク派学僧)
「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語
辞典』の編纂協力」(昭和 54 年度以降)

李 成 珪 大韓民国ソウル大学助教授 「中国古代史の研究および
関係資料の調査」(昭和 56 年 7 月 20 日以降 1 ヶ月間)

今 枝 由 郎 フランス国立科学研究センター研究員 「『チベット研
究文献目録』(～1975 年)の作成」(昭和 56 年 10 月
1 日以降 100 日間)

iii 外国人・外国人研究者への便宜供与

Australia

Sir J. Plimsoll	Ambassador of Australia
R. F. Osborn	Minister of Australian Embassy
W. Reed	Second Secretary of Australian Embassy

Canada

C. Le Blanc	Director of Center for East Asian Studies, The Montreal University
-------------	---

D. D. R.

Thomas Thilo

ドイツ民主共和国科学アカデミー古代史・考古学中央研究所研究員

France

Léon Vandermeersch

日仏会館館長, フランス国立高等研究院教授

François Gros

フランス極東学院院長

Hubert Durt

フランス極東学院研究員

Charlotte von Verschuer

Doctorat, Université Paris III

W. Germany

" " "

Israel

Harold Z. Schiffrin

Senior lecturer, Institute of Asian and African Studies, in Chinese Studies, The Hebrew University

Korea

趙 炳 瞬

Seoul, 誠庵古書博物館研究員

姜 信 杓

韓国精神文化研究院社会研究室長
韓国学大学院教授

高 柄 翊

韓国精神文化研究院院長

金 基 周

Seoul 教育大学校教授

People's Republic of china (中華人民共和国)

熊 德 基

中国社会科学院歴史研究所副所長, 研究員

沙 知

中国人民大学副教授

趙 玉 洲

中国社会科学院外事局幹部

樊 建 明

北京大学教授

俞 宜 国

新華通訊社記者

劉 美 河

"

劉 銳 齡

中国社会科学院民族学研究所研究員

林 甘 泉

中国社会科学院歴史研究所副所長, 研究員

姜	鎮	慶	中国社会科学院歷史研究所編訳室副主任
侯	相	鏊	中国出版对外貿易兌公司（上海分公司）
魏	龙	泉	中国出版对外貿易兌公司（上海分公司）
孫	立	功	"
程	万	里	北京大学語・非研究所教授
蘇		真	北京師範大学外国教育研究所教師

Republic of China (中華民國)

何	金	賜	台湾省各姓歷史淵源發展研究学会監事
尹	光	榮	中国文芸協會會員
潘	重	規	中国文化大学教授兼文学院院長，中国文学研究所所長
鍾	肇	政	中国文芸協會會員
林	秋	山	中国文化大学教授
王	国	潘	台北市文献委員會委員

Republic of Turkey

Ruşen Keleş	Professor, Ankara Univ.
Bozkurt Güvenç	Professor, Hacettepe Univ. (Ankara)
Talet Tekin	Professor, " "

Sudan

Yusuf Hasan	Head of Institute of African and Asian Studies, Univ. of Khartoum
-------------	---

United Kingdom

Sebastian Swann	B.A.Oxford M.A. School of Oriental and African Studies
-----------------	--

United Republic of Tanzania

Mohamed Burkar Mkele	Professor, Zanzibar Univ.
----------------------	---------------------------

U. S. A.

Samuel C. Chu

Professor, Ohio State University

Richard J. Lufrano

Columbia University

Helen Chauncey

Stanford University

湯 維 強

University of Michigan

石 漢 椿

Professor, California State Univ.

Elizabetha Rerry

教員, University of Washington

Prasenjit Duara

研究員, Harvard Univ.

B. A. Elman

研究員, East Asian Studies Colby College

U. S. S. R.

G. V. Fedorovich

ウクライナ共和国科学アカデミー考古学研究所副所長

V. S. Izrailevich

ウクライナ共和国科学アカデミー民族学研究所上級研究員

K. M. Vasilievich

ウクライナ共和国科学アカデミー民族学研究所国外アジア民族学部長

K. V. Petrovich

ウクライナ共和国科学アカデミー民族学研究所学術書記

8. 職員の研究業績

(期間：昭和56年4月1日～昭和57年3月31日まで)

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介 ⑥…翻訳
⑦…講演・研究発表 ⑧…その他(評論・雑記・座談会等)

池田 温

②『大唐開元礼 附大唐郊祀録』(第2版)(汲古書院, 1981年8月, 871頁), ③「中国歴代墓券略考」(東洋文化研究所紀要 86, 193～278頁, 東京大学東洋文化研究所, 1981年11月), ④「中国における簡牘研究の位相」(木簡研究 3, 71～98頁, 国立奈良文化財研究所, 1981年11月), 「中国における吐魯番文書整理研究の進展 — 唐長孺教授講演の紹介を中心に —」(史学雑誌 91-3, 59～85頁, 史学会, 1982年3月), ⑤「中田勇次郎編『中国書論大系』第一期六冊の完成に寄せて」(出版ダイジェスト 1982年10月30日, 3面), 「和泉新編『現代中国地名辞典』」(週刊読書人 1982年1月11日, 9面), 「山本達郎著「敦煌発見大暦四年手実に見える地段の記載」」(法制史研究 31, 270～72頁, 法制史学会, 1982年3月), ⑦「T'ang legal texts found at Tunhuang and Turfan」(The ACLS-Rockefeller Foundation Research Conference on "the transformation of Chinese Law, T'ang through Ming", Bellagio, 1981年8月11日), ⑧「Les marchands sogdiens dans les documents de Dunhuang et de Turfan」(JA CCLXIX, pp. 77-9, 1981年), 「編集後記」(史学雑誌 90-5, 367頁, 1981年5月), 「明清史国際学術討論会」(史学雑誌 90-7, 97～100頁, 1981年7月), 「大唐開元礼 第2版附記」(『大唐開元礼附大唐郊祀録』, 865～71頁), 「北京書店雑感」(東洋学文献センター通信 22, 3～7頁, 東京大学東洋文化研究所, 1982年3月)。

岩生成一

⑦「史伝・ジャガタラお春」(学士会・講演特集号 1981, 2～18頁, 1981年)

10月), ⑧「大震災前後よもやま話〈歴史学界の今昔〉(11)」(日本歴史 400, 吉川弘文館, 1981年9月)。

海野一隆

③「李朝朝鮮における地図と道教」(東方宗教 57, 14~37頁, 日本道教学会, 1981年5月), “The Origin of the Cartographical Symbol Representing Desert Areas” (Imago Mundi 33, pp. 82~87, 1981), 「西洋地図学史におけるガスタルディ型日本の登場」(石田寛教授退官記念事業会編『地域 — その文化と自然』, 464~480頁, 福武書店, 1982年3月), ⑦“The Asian Lake ‘Chiamay’ in the Early European Cartography” (IXth International Conference on the History of Cartography, Pisa, Firenze and Roma, 1981年6月2日), ⑧「西遊記の世界像」(陳舜臣監修『西遊記の旅』中国古典紀行 3, 103~108頁, 講談社, 1981年8月), 「洋子江」(PINUS <雄松堂書店PR誌> 4, 12~13頁, 1982年3月)。

梅村 坦

③「吐魯番県展覧館展示回鶻文公文書」(『中嶋敏先生古稀記念論集(下)』45~66頁, 汲古書院, 1981年7月), 「第7章, 中央アジアのトルコ化」, 「第9章, モンゴルの支配」(護雅夫著『テレビ大学講座, 中央アジア史 — 現代アジア論 I —』69~77, 87~96頁, 旺文社, 1981年8月), ⑥「黒龍江省における文物考古工作三十年の主要な収獲」・「建国以来の新疆考古学の主要な収獲」・「西藏自治区における文物工作の三十年」(文物編集委員会編・関野雄監訳『中国考古学三十年, 1949-1979』114~123, 170~185, 383~398頁, 平凡社, 1981年10月), 「張承志『王延徳の高昌 — 北庭経路考』」(アジア・アフリカ言語文化研究 22, 139~157頁, 1981年10月), ⑦「中央アジアと『シルクロード』」(霊友会図書室, 1981年5月21日), 「テレビ大学講座, 中央アジア史 — 第4章; 6世紀までの中央アジア, 第7章; 中央アジアのトルコ化, 第9章; モンゴルの支配, 第13章; ロシアによる植民地化」(テレビ朝日, 午前6時~6時45分, 1981年9月14日, 10月5

日, 10月19日, 11月16日放映), 「中央アジア史とウイグル」(アジア文化研究会, 1981年12月21日), 「日本における東洋学と中央アジア史研究の創始」(アンカラ大学言語・歴史・地理学部シナ学科, 1982年3月6日)。

榎 一雄

- ①『東西文明の交流』(《図説 中国の歴史 第11巻》, 講談社, 1981年9月<第三版>, 182頁), ②“Acta Asiatica, 41”(Studies of Central Asian History in Japan, Tōhō Gakkai, 1981, December), ③「楼蘭のミイラ(1-3)」(月刊歴史教育 26-5, 6, 7, pp. 20-26, 17-21, 11-15, 1981年5月, 6月, 7月), 「シルクロードと隊商貿易」(月刊歴史教育 26-5, pp. 20-26, 1981年5月), 「董恂とその著書 特に日記について(5)」(近代中国 9, 156-181頁, 敝南堂書店, 1981年6月), 「魏志倭人傳の里程記事について」(佐伯有清編『耶馬台國基本論文集』Ⅱ, 3-6頁, 創元社, 1981年12月), 「邪馬台國の方位について」(全上, 59-65頁), 「張騫の鑿空」(ももんが 25-12, 2-7頁, 1981年12月), 「徐松の西域調査について(1)」(近代中国 10, 135-148頁, 敝南堂書店, 1981年12月), “A History of Central Asian Studies in Japan”(Acta Asiatica 41, pp. 95-117, Tōhō Gakkai, 1981, December), ④「中央アジア旅行記(8)-(20)」(日本古書通信 46-1-47-1, 1981年1月-1982年1月), 「方豪神父の訃」(東方学 62, 146-152頁, 1981年7月), 「支那学の起源 — ボクサー教授のメンドーサ及びバルロス研究 —」(東方学 63, 125-142頁, 1982年1月), 「サイモン教授千古」(東洋学報 63-3・4, 186-207(通巻 418-439)頁, 東洋文庫, 1982年3月), ⑥「南蛮漂流譚(3)-(8)」(山紫水明 104-109, 1981年5月-1982年3月, 《Francisco Vas d'almada, Tratado do sucesso que teve a nao S. Joam Baptista, etc., Lisboa 1625の全訳》), ⑦「アジア史におけるイラン文化」(国立国会図書館講演, 1980年11月5日, 要旨: 図書議員連盟講演集(二), 16頁, 1982年5月), 「もう一つのシルクロード — 東西交通史上の南アフガニスタン —」(東方学会・九州中国学会共催, 1981年5月24日, 於佐賀女子短期大学), 「朱子学の国際的背景」(第9

回国際学術大会〈新儒学 — 導入, 展開, 現代的意義 —〉, 1981年10月30日, 要旨: 同報告書, 27~34頁, 1982年5月), ⑧「光眩き春なれど」(言論春秋 142, 2頁, 1981年4月20日), 「長澤規矩也先生を偲ぶ」(書誌学〈復刊新〉28, 71~76頁, 1981年7月), 「本末顛倒」(言論春秋 153, 2頁, 1981年7月6日), 「『論集近代中国研究』(市古宙三教授退官記念)はしがき」(山川出版社, 1~5頁, 1981年7月), 「ソ連の総合研究によせて」(言論春秋 168, 2頁, 1981年10月19日), 「昭和55年度の東洋文庫」(東洋文庫年報昭和55年版・巻頭言, 3~4頁, 1981年10月), 「懐しのケンタッキーホーム」(日本之経済, 1981年11月, 6頁), 「『華夷変態』再刊にあたって」(東方書店, 1~2頁, 1981年11月), 「『岩波西洋人名辞典』増補版」(岩波書店, 数十項目, 1981年12月), 「アジア研究と東洋文庫」(菱友 142, 30~32頁, 1982年新年号), 「先学を語る — 藤田豊八博士 —」(東方学 63, 162~202頁, 1982年1月), 「東方学編輯後記」(東方学 62, 63), 「1981年読書アンケート」(みすず 257, 42頁, 1982年1月), 「岡岡照光著『敦煌の絵物語』推薦文」(東方選書 8, 東方書店, 1982年2月), 「張鷟の鑿空」(国学院雑誌 83-2, 46~47頁, 1982年2月), 「辻直四郎博士遺文」(世界の東洋学界における東洋文庫」(東洋文庫書報 13, 50~51頁, 102~104頁, 1982年3月)。

越智重明

③「王僧虔の誠子書をめぐって」(東方学 63, 30~43頁, 東方学会, 1982年1月), 「漢時代の絹銭をめぐって」(東洋学報 63-3・4, 35~66頁, 東洋文庫, 1982年3月), 「前漢の財政について」(九州大学東洋史論集 10, 1~25頁, 九州大学文学部東洋史研究会, 1982年3月)。

鈴木(大嶋)立子

③「元代の儒戸について」(『中嶋敏先生古稀記念論集(下)』, 319~340頁, 汲古書院, 1981年7月), ④「中華人民共和国における近年の元朝史研究」(東方学 63, 153~161頁, 東方学会, 1982年1月), ⑤「南京大学歴史系元史組編『元史及北方民族史研究集刊』」(東洋学報 63-3・4, 169~173頁,

東洋文庫, 1982年3月)。

岡田英弘

- ①『世界各国史 12 北アジア史(新版)』(護雅夫らと共著, 山川出版社, 1981年8月, 373頁), 『日本の言語文化研究リプリント・シリーズ Ⅷ 2 中国のなかの日本』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1982年3月, 112頁), ②『家族 — 文学の中の親子関係』(小堀桂一郎と共編, PHP研究所, 1981年7月, 230頁), 『適応力 — 新しい日本人の条件』(三修社, 1982年1月, 249頁), ③「陶晶孫伝稿」(『論集近代中国研究』, 45~76頁。山川出版社, 1981年7月), 「康熙帝と天文学」(歴史と地理 312, 31~33頁, 山川出版社, 1981年8月), “From Chinese to Japanese : An insight into the ethnic environment at the founding of the Kingdom of Japan in 668 ”(京都産業大学国際言語科学研究所所報 2-4, 231~241頁, 京都産業大学, 1981年9月), 「康熙帝・雍正帝・乾隆帝」(『人物中国の歴史 9 激動の近代中国』155~188頁, 集英社, 1982年2月), ④「第十八回野尻湖クリルタイ」(東洋学報 63-3・4, 208~213頁, 東洋文庫, 1982年3月), 「第六回東亜アルタイ学会」(同上, 214~219頁), ⑤「萩原淳平著『明代蒙古史研究』」(史学雑誌 90-8, 79~85頁, 史学会, 1981年8月), 「田代和生著『近代日朝通交貿易史の研究』」(週刊読書人 1400, 4頁, 1981年9月28日), ⑦「新儒学 — 導入, 展開, 現代的意義」(国立慶北大学校第9回国際学術セミナー, 1981年10月30~31日, 本文: 総合報告書, 117~119頁), “Four Mongolian songs in praise of Emperor K'ang-hsi ”(第6回東亜アルタイ学会, 1981年12月18~23日, 要旨: 東洋学報 63-3・4, 217頁), ⑧「春秋 中国を救うべきか」(時事解説 8937, 1頁, 時事通信社, 1981年4月14日), 「春秋 韓国第五共和国の発足」(同 8958, 1頁, 1981年6月30日), 「春秋 在米華僑の対中国感情」(同 8973, 1頁, 1981年8月21日), 「春秋 シナリオ」(同 8980, 1頁, 1981年9月18日), 「新聞批評『鄧小平の中国』はどこへ行く」(同 8984, 9~10頁, 1981年10月2日), 「春秋 政治指導者の条件」(同 8986, 1頁, 1981年10月9日), 「新聞批評『第三次国共合作』の

提案」(同 8988, 11～12頁, 1981年10月16日), 「新聞批評『第三次国共合作』その後」(同 8992, 7～8頁, 1981年10月30日), 「春秋 現代の韓国と儒教」(同 8996, 1頁, 1981年11月17日), 「新聞批評 米議会と日本の防衛努力」(同 8997, 8～9頁, 1981年11月20日), 「新聞批評 意外な中国の実態」(同 9001, 7～8頁, 1981年12月4日), 「新聞批評 中国全人代と各紙の論評」(同 9004, 10～11頁, 1981年12月15日), 「春秋 日本人の対外意識」(同 9006, 1981年12月22日), 「新聞批評 極東有事研究の開始」(同 9013, 7～8頁, 1982年1月29日), 「新聞批評『文学者の反核声明』」(同 9017, 7～8頁, 1982年2月12日), 「春秋 日韓誤解の構造」(同 9020, 1頁, 1982年2月23日), 「新聞批評 社会党大会とF4問題」(同 9022, 8～9頁, 1982年3月2日), 「春秋『縮み』志向の日本人」(同 9026, 1頁, 1982年3月16日), 「新聞批評 日米貿易摩擦の解決策」(同 10～11頁), 「微妙な相関」(ざっくばらん 8-7, 7頁, 並木書房, 1981年7月1日), 「特別座談 大陸文化と古代韓国」(アジア公論 11-2, 34～51頁, 韓国国際文化協会, 1982年2月), 「文学者の反核声明を疑う」(世界日報 2530, 8～9頁, 世界日報社, 1982年1月29日)。

川崎信定

- ③「一切智(sarvajña)思想の展開」(勝又俊教博士古稀記念論文集・『大乘仏教から密教へ』, 199～217頁, 春秋社, 1981年9月), 「一切智と一切智智」(密教学研究 13, 1～14頁, 密教学会, 1981年3月), 「仏教と恩の思想」(浅草寺文化講座 25, 203～215頁, 1981年11月)。

河鱈源治

- ③「天徳と太平王について」(『論集近代中国研究』, 99～120頁, 山川出版社, 1981年7月), 「赫治清著「韋昌輝伏誅日時考」<近代史研究 1979-1>」(近代中国 9, 8～16頁, 敵南堂書店, 1981年6月)。

神矢法子

- ③「漢晋間における喪服礼の規範的展開 — 婚姻習俗「拜時」をめぐる —」

(東洋学報 63-1・2, 63~92頁, 東洋文庫, 1981年12月), ⑦「漢 — 晋時代における喪服礼の規範的位相 — 礼・習俗・法 —」(東洋文庫談話会, 1981年6月27日, 要旨: 東洋文庫書報 13, 126~127頁, 1982年3月)。

神田信夫

②『北アジア史(新版)』(護雅夫氏と共編, 山川出版社, 1981年8月, 413頁), ③「満州における国家の成立」「清代の満州」(『北アジア史(新版)』, 271~296頁, 325~350頁), 「両広総督楊琳の奏摺について」(『論集近代中国研究』121~142頁, 山川出版社, 1981年7月), 「満文世管佐領執照の研究」(明治大学人文科学研究所年報 22, 76~77頁, 1981年11月), ⑤「鄭天挺著『探微集』」(東洋史研究 40-2, 133~138頁, 1981年9月), ⑦「北京図書館の満州語文献」(第18回野尻湖クリルタイ, 1981年7月13日), 「北京の故宮について」(埼玉県立不動岡高等学校職員研修会, 1981年12月15日), "Remarks on Emu tanggū orin sakda i gisun sarkiyān" (Thg Sixth East Asian Altaistic Conference, Taipei, 1981年12月21日), ⑧「乾隆帝の文化事業 — 故宮博物院の収蔵品をめぐって」(出版ダイゼスト 994, 1981年5月20日), 「文学部五十年のあゆみ(座談会)」(明治大学広報 135, 1981年9月1日), 「青山先生と明大東洋史」「あとがき」(『青山公亮先生の思い出』, 8~10頁, 156~157頁, 同編集委員会, 1981年9月), 「還暦偶感」(月刊健康 216, 1982年1月), 「史学地理学科創設期前後(座談会)」(≪明治大学文学部五十年史資料叢書X≫, 1982年2月)。

菊池英夫

③「唐代の沙州敦煌県城の位置」(史朋 13, 13~22頁, 北海道大学東洋史談話会, 1981年9月), "On Documents of the T'ang military System discovered in Central Asia" (Journal Asiatique, Tome CCLXIX, pp.119~150, 1981), ⑦「中国の旧地主庄园 — 河南省鞏県康氏の紹介を中心として —」(東北中国学会大会, 於北海道教育学函館分校, 1981年5月30日)。

河野六郎

- ③「方言雑考」(東洋研究 62・63・64 合併号, 109～124 頁, 大東文化大学東洋研究所, 1982 年 2 月)。

後藤 明

- ③「エジプトにおける近代教育制度の導入」(山形大学紀要(人文科学) 10-1, 85～113 頁), ⑤「H. ケネディー著『初期アッバース朝』」(山形大学史学論集 2, 45～50 頁), ⑦「『族』の結合の機能と意味」(シンポジウム「アラブとは何か」, 中近東文化センター研究会報告 Ⅱ 2, 64～74 頁)。

佐伯 富

- ③「明清の社会」(『明清の美術』, 143～152 頁, 平凡社, 1982 年 2 月)。

酒井憲二

- ②『寛永諸家系図伝(第四)』(校訂協力, 続群書類従完成会, 1981 年 7 月, 280 頁), 『神田本白氏文集の研究』(太田次男・小林芳規著, 勉誠社, 1982 年 2 月, 翻字点検, 訓読文索引校閲), ③「甲陽軍鑑の写本について」(『土井先生頌寿記念論文集・国語史への道(下)』, 27～51 頁, 三省堂, 1981 年 6 月), 「百二十句本『平家物語』の本文について」(言語と文学 15, 15～19 頁, 光村図書, 1981 年 6 月)。

志茂碩敏

- ⑦「イル汗国におけるモンゴル諸勢力の消長」(第 31 回東方学会総会研究発表, 1981 年 11 月 2 日), ⑧「ベルシャ語資料のバックナンバー」(国立国会図書館月報 1981 年 7 月号, 32 頁), 「私と血液型」(月刊・アボ・メイト 1981 年 5 月号, 14 頁), 「テヘランのイラン人とその血液型(1, 2, 3, 4)」(アボ・メイト 1981 年 7 月, 8 月, 9・10 月, 12 月号, 8～11, 7～9, 14～18, 10～11 頁)。

斯波義信

- ③「宋代の都市城郭」(『中嶋敏先生古稀記念論文集(下)』, 289~318頁, 汲古書院, 1981年7月), 「明治期日本来住華僑について」(社会経済史学 47-4, 57~72頁, 1982年12月), 「中国都市史研究から」(『講座・日本の封建都市(第1巻)』, 425~439頁, 1982年5月), ⑤「佐藤武敏著『中国古代絹織物史研究(上・下)』」(社会経済史学 47-2, 97~102頁, 1981年), ⑦「水とともに生きる — 河の文明史 —」(大阪大学開放講座, 1981年9月29日, 要旨: 「水をめぐる15の話題」, 23~27頁)。

滋賀秀三

- ③「清代訴訟制度における民事的法源の概括的検討」(東洋史研究 40-1, 74~102頁, 1981年6月), ⑧「唐制における官職の守・行をめぐって — 律令研究会編『唐律疏議訳註篇1』に対する池田温氏の書評への回答, 附「得替」の語について —」(法制史研究 31, 331~333頁, 1982年3月)。

清水宏祐

- ①“Bibliography on Saljūq Studies”(Studia Culturae Islamicae XII, ILCAA, 1979年, pp. 82), ④「日本オリエント学会第20回大会」(通信 35, 37頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1979年3月), ≪— 以上, 海外出張前 —≫, ⑦「オスマン朝以前のアナトリア」(東洋文庫イスラム国家論研究会, 1981年5月29日), 「カイロ, アンカラの文書館」(第18回野尻湖クリルタイ, 1981年7月14日), 「ベルシャ語写本『宰相たちの歴史』について」(日本オリエント学会第23回大会, 1981年10月25日), ⑧「中東日記より≪未開発言語・文化習得のための現地派遣報告≫」(通信 42, 20~24頁, 東大A・A研, 1981年7月), 「タラート・テキンさん<プロフィール>」(通信 43, 12頁, 1981年11月), 「トルコ大衆紙より<民族のこころ>」(通信 44, 16~17頁, 1982年3月)。

田川孝三

- ③「光緒初年朝鮮越境流民問題」(『論集近代中国研究』, 213~232頁, 山川出版社, 1981年7月)。

田中時彦

②「異人殺傷事件白書」(藤根井和夫編『歴史への招待(10)』, 134～157頁, 日本放送協会, 1980年12月), 「第三十代斎藤内閣——「非常時」の鎮静を担って——」・「第三十一代岡田内閣——「現状維持」の限界に立って——」(林 茂・辻靖明編『日本内閣史録(3)』, 287～341頁, 343～391頁, 第一法規出版株式会社, 1981年8月), 「アランの中の“挙国一致”」・「軍国化への歯止め空しく」(牧野喜久男編『一億人の昭和史——日本人(7) “三代の宰相たち(上)”——』, 223～225頁, 237～239頁, 毎日新聞社, 1982年2月)。

竺沙雅章

①『中国仏教社会史研究』(同朋舎, 1982年2月, 586頁), ②「送劉滿詩, 湖州妙嚴寺記并題跋, 郭熙画樹色平遠図巻題跋《釈文, 解題》」(中田勇次郎・傳申編『欧米収蔵中国法書名蹟集第3巻』, 中央公論社, 1981年11月, 133～134頁, 138～140頁, 153～154頁), 「伝趙光輔画蕃王礼仏図并題跋, 臨樂毅論并題跋, 元明古徳冊《釈文, 解題》」(同上書第4巻, 1982年3月, 152～153頁, 153～154頁, 156～161頁), 『図説日本仏教の原像』(井ノ口泰淳, 柳田聖山と共編, 法蔵館, 1982年3月, 328頁), ⑦「宋代士大夫の寄居について」(東洋史研究会大会, 1981年11月3日, 要旨: 東洋史研究40-3, 166～167頁), 「宋代の出版文化」(懷徳堂秋季講座, 1981年11月11日), ⑧「宋の太宗と道教」(『淳化閣帖』第3巻月報, 二玄社, 1981年10月, 5頁)。

土肥義和

③「永徽二年東官諸府職員令の復元——大英図書館蔵同職員令断片(S.11,446)の発見に際して——」(国学院雑誌 83-2, 1～29頁, 1982年2月), ⑦「大英図書館蔵スタイン敦煌文献調査を終えて」(国学院大学史学科教員・学生への帰国報告会, 1981年6月6日), 「大英図書館所蔵未紹介敦煌文書数種」(東洋文庫内陸アジア出土古文献研究会, 1981年7月18日), ⑧「新出王義之十七帖敦煌本残紙をめぐって——敦煌文献研究の現状」(墨 34, 124～125

頁, 併芸術新聞社, 1982年1月)。

鳥海 靖

①『「明治」をつくった男たち — 歴史が明かした指導者の条件』(PHP研究所, 1982年2月, 230頁), ③「原内閣 — 『純政党内閣』の明暗」(辻清明・林茂編『日本内閣史録』第2巻, 285～340頁, 第一法規出版, 1981年8月), 「高橋内閣 — 政界再編成の陣痛」(辻清明・林茂編『日本内閣史録』第2巻, 341～375頁, 第一法規出版, 1981年8月), ⑤「憲法学者たちの人とその学説 — <書評>長尾龍一著『日本法思想史研究』」(文化会議 152, 32～34頁, 日本文化会議, 1982年2日), ⑦「政治指導者の条件 — 『派閥』という知恵」(日本文化会議シンポジウム「政治家の条件」, 1982年9月23日, 要旨: 諸君ノ14-1, 1982年1月, 51～56頁), ⑧「『福沢諭吉選集』第5巻・解説」(315頁, 岩波書店, 1981年8月), 「今月の日本史」(歴史読本, 220～221頁, 1981年7月, 11月, 1982年3月, 新人物往来社)。

中嶋 敏

③「霊渠考」(東洋研究 62・63・64 合併号, 197～229頁, 大東文化大学東洋研究所, 1982年2月), ⑦「中国史と銭の時代」(東洋文庫春期東洋学講座, 1981年6月2日, 要旨: 東洋文庫書報 13, 109～111頁, 1982年3月)。

永田雄三

⑥「『世界の教科書・歴史トルコ』(全3巻)」(共訳, ほるぷ出版社, 第3巻, 214頁, 1981年11月), ⑦「Karaosmanoğlu Hacı Hüseyin Ağa'ya ait Bir Tereke Defteri」(第9回トルコ歴史学会大会, 於アンカラ, 1981年9月21～25日), 「The Echos of the Turkish Revolution in Japan」(International Atatürk Symposium, Ankara, Z-6, November 1981), 「現代トルコの社会と政治 — 遊牧騎馬民族の子孫たち —」(第17回長野オリエントセミナー, 長野市, 1982年3月13日), ⑧「イスタンブール国立文書館」(徳永康元編『世界の図書館』, 251～257頁, 丸善, 1981年10月)。

原 實

- ②「『辻直四郎著作集 第一巻』(ヴェーダ学Ⅰ)」(法蔵館, 502頁, 1982年2月), ③“utsāha”(The Journal of Oriental Research, Madras, The Kuppaswami Sastri Research Institute, Silver Jubilee Volume, ed., by S. S. Jaraki, vols XXXX - XXXX1 (Madras 1981), pp. 15~30), ⑧「『辻直四郎著作集 第一巻・解題』(503~509頁, 法蔵館, 1982年2月)。

坂野正高

- ③「馬建忠『擬設繙訳書院議』— 解題と訳文」(アジア文化研究 13, 61~70頁, 国際基督教大学アジア文化研究所), ⑦「張蔭桓(1886~89年駐米公使)の『三洲日記』をよむ」(東京大学法学部政治学研究会, 1981年4月25日), ⑧「清季一個外交家張蔭桓撰『三洲日記』札記」(辛亥革命七十周年記念学術討論会, 1981年10月, 於武漢東湖賓館), 「武漢における学術討論会に出席して— 二つのあいさつ—」(東亜 177, 1982年3月)。

本庄比佐子

- ③「上海共產主義グループの成立をめぐる— 初期中国共產主義運動史研究ノート」(『論集近代中国研究』, 361~380頁, 山川出版社, 1981年7月), 「中国革命への道」(『中国現代史』・中嶋嶺雄編, 57~84頁, 有斐閣, 1981年8月)。

本田實信

- ②『回疆志 卷一, 二<校訂>』(『トルキスタンの社会史・文化史に関する総合的研究; 文部省科学研究費研究成果報告書』, 60頁, 京都大学, 1982年3月), ⑦「Quriltai at Talas」(第6回東亜阿爾泰学会, 1981年12月)。

松壽誠達

- ③「古代インド説話の構造論的理解— デーヴァービとシャンタヌの説話の場合—」(『勝又俊教博士古稀記念論集・大乘仏教から密教へ』, 627~640頁,

1981年9月),「シュナハシェーパ説話の意味」(大正大学研究紀要 67, 1
~18頁, 1982年3月)。

三根谷 徹

- ⑦「言語の記述と説明」(国学院大学国語研究会大会, 1981年6月6日),
「常用漢字表について」(国学院大学国語学研究室会, 1981年8月29日),
⑧「座談会・常用漢字表をめぐる」(文部時報 1254, 8~22頁, 文部省,
1981年11月)。

森安孝夫

- ③「渤海から契丹へ — 征服王朝の成立 —」(『東アジア世界における日本古
代史講座7 東アジアの変貌と日本律令国家』, 71~96頁, 学生社, 1982年
1月),「景教」(『オリエント史講座3 渦巻く諸宗教』, 264~275頁,
学生社, 1982年3月), “Qui des Ouigours ou des Tibétains ont
gagné en 789-792 à Beš-Balïq?” (Journal Asiatique
CCLXIX (année 1981), pp. 193~205), ⑦「敦煌出土元代ウイグ
ル仏教徒の一書簡(ウイグル文)の解読とその歴史的背景」(北陸ユーラシア研究
会例会, 1981年12月21日)。

山内昌之

- ③「スルタンガリエフと赤軍ムスリム部隊」(共産主義と国際政治 6-20,
2~21頁, 日本国際問題研究会, 1981年8月),「ソ連邦の現代スーフィズム
— 社会主義体制とイスラム神秘主義教団」(国際政治 21, 30~45頁, 日本
国際政治学会, 1981年10月), ④「1980年の歴史学会回顧と展望 — 西ア
ジア・北アフリカ近現代 —」(史学雑誌 90-5, 277~280頁, 史学会,
1981年5月)。

山崎元一

- ③「古代インドのシェードラ — 律法経, 仏典, 『実利論』を史料として —」
(国学院大学紀要 20, 130~159頁, 1982年3月), ⑤「R. S. ジャルマ著

『古代インドのシュードラ——西暦 600 年頃に至る下層階級の社会史——』（東洋学報 63-1・2, 214~223 頁, 東洋文庫, 1981 年 12 月), ⑥「タゴール著『インド史のヴィジョン』」(『タゴール著作集(第 8 卷)——人生論・社会論集——』, 135~171 頁, 第三文明社, 1981 年 7 月)。

山根幸夫

③「東方文化学院の成立とその展開」(『論集近代中国研究』467~492 頁, 山川出版社, 1981 年 7 月), 「明末農民反乱と紳士層の対応」(『中嶋敏先生古稀記念論集(下)』359~377 頁, 汲古書院, 1981 年 7 月), 「戦后日本明史研究(社会経済史部分)的動向」(中国史研究動態 1981-6, 12~22 頁, 中国社会科学出版社, 1981 年 6 月), 「河南省商城県の紳士層の存在形態」(東洋史研究 40-2, 59~84 頁, 東洋史研究会, 1981 年 9 月), 「北大校長になる以前の蔡元培」(歴史と地理<世界史の研究 109>, 42~43 頁, 山川出版社, 1981 年 11 月), ⑤「『復印報刊資料』の刊行について」(燎原 13, 8~9 頁, 燎原書店, 1981 年 7 月), 「<天一閣>蔵の明代方志について」(燎原 15, 9~10 頁, 燎原書店, 1982 年 2 月), 「中国社会科学院歴史研究所明史研究室編『中国近八十年明史論著目録』」(東洋学報 63-3・4, 174~177 頁, 東洋文庫, 1982 年 3 月), ⑥「吳金成『明代紳士層の形成過程について(下)』」(稲田英子共訳, 明代史研究 9, 19~44 頁, 明代史研究会, 1981 年 10 月), 「伍丹戈『明代紳衿地主の形成』」(明代史研究 10, 61~80 頁, 明代史研究会, 1982 年 3 月), ⑦「中国の共和制と日本の対応——辛亥革命の際における——」(北京大学亜非研究所, 於臨湖軒, 1981 年 8 月 3 日), 「全 上」(天津社会科学院日本問題研究所, 於天津友誼賓館, 1981 年 8 月 6 日), 「辛亥革命七十周年學術討論会参加報告」(日中関係史研究会, 於早大社研, 1981 年 12 月 11 日), 「張獻忠の大西政権と紳士層」(京大人文学部研究所明清研究班例会, 1982 年 2 月 9 日), 「対華二十一カ条要求の研究史」(日中関係史研究会, 於早大社研, 1982 年 2 月 10 日), ⑧「日中交流史訪華団に参加して——上海における學術交流——」(辛亥革命研究 1, 27~33 頁, 辛亥革命研究会, 1981 年 3 月), 「明代史研究の概況——1980 年」(明代史研究 9, 53~54 頁, 明代史研究会, 1981 年 10 月), 「記念辛亥革命七十周年

学術討論会に参加して」(交流簡報 12, 10 頁, 日中人文社会科学交流協会, 1981 年 12 月), 「日中関係史研究会訪中の旅」(東方 19, 1~3 頁, 東方書店, 1982 年 1 月)。

渡辺紘良

③「淳熙末年の建寧府 — 社倉米の昏頼と貸糧と — 」(『中嶋敏先生古稀記念論集(下)』, 195~217 頁, 汲古書院, 1981 年 7 月)。

IV 業務報告

1. 庶務報告

A. 財団法人東洋文庫理事会・評議員会

理 事 会

第 231 回 開催日 昭和 56 年 6 月 2 日（火曜日）

出席者 榎 一雄，小笠原光雄，河野六郎，松本重治，山本達郎

委任状 有光次郎，川北禎一，高垣寅次郎，徳川宗敬，中島正樹

第 232 回 開催日 昭和 56 年 6 月 2 日（火曜日）

出席者 榎 一雄，小笠原光雄，河野六郎，田中正俊，松本重治
山本達郎，高雄 靖

委任状 有光次郎，市古宙三，大槻文平，川北禎一，高垣寅次郎
徳川宗敬，中村俊男，護 雅夫，播磨俊雄

第 233 回 開催日 昭和 56 年 12 月 8 日（火曜日）

出席者 榎 一雄，有光次郎，市古宙三，大槻文平，小笠原光雄
河野六郎，田中正俊，中村俊男，護 雅夫，山本達郎
播磨俊雄

委任状 高垣寅次郎，徳川宗敬，松本重治，高雄 靖

評 議 員 会

第 103 回 開催日 昭和 56 年 6 月 2 日（火曜日）

出席者 阿部隆一，亀井 孝，神田信夫，坂本太郎，高雄 靖
田中正俊，中嶋 敏

委任状 石川忠雄，市古宙三，梅原末治，大槻文平，沢田敏男
清水 司，田部文一郎，中田乙一，中村俊男，中山素平

長谷川周重，播磨俊雄，日比野丈夫，平野龍一，俣野健輔
護 雅夫

B. 東洋学連絡委員会

前期 開催日 昭和 56 年 5 月 19 日（火曜日）

出席者 榎 一雄，市古宙三，岩生成一，植村清二，中嶋 敏，宮崎市定
山本達郎

- 議 題 1. 昭和 55 年度財団法人東洋文庫事業報告について
2. 昭和 56 年度財団法人東洋文庫事業計画案について

後期 開催日 昭和 56 年 11 月 17 日（火曜日）

出席者 榎 一雄，阿部隆一，小川環樹，佐藤 長，中嶋 敏
日比野丈夫，福井康順，本田實信，宮崎市定，山本達郎

- 議 題 1. 昭和 56 年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2. 昭和 57 年度財団法人東洋文庫事業計画案について

C. 来 賓

1. 来館者 浩宮徳仁親王殿下

来館日 昭和 56 年 5 月 15 日（金曜日）

2. 来館者 田中龍夫文部大臣

来館日 昭和 56 年 10 月 26 日（月曜日）

2. 人 事 報 告

役員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
56. 4. 1	評 議 員	向 坊 隆	退 任	東京大学総長
"	"	平 野 龍 一	就 任	"
56. 6. 2	"	俣 野 健 輔	退 任	飯野海運株式会社社会長
"	監 事	中 島 正 樹	退 任	株式会社三菱総合研究 所会長
"	理 事	市 古 宙 三	就 任	中央大学教授
"	"	大 槻 文 平	"	三菱鉱業セメント株式 社会長
"	"	田 中 正 俊	"	東京大学教授
"	"	中 村 俊 男	"	株式会社三菱銀行会長
"	"	護 雅 夫	"	日本大学教授
"	評 議 員	阿 部 隆 一	"	慶應義塾大学教授
"	"	亀 井 孝	"	成城大学教授
"	"	神 田 信 夫	"	明治大学教授
"	"	田 部 文 一 郎	"	三菱商事株式会社社会長
"	"	中 嶋 敏	"	大東文化大学教授
"	"	中 田 乙 一	"	三菱地所株式会社社会長
"	"	日比野 丈 夫	"	大手門女子大学学長
"	監 事	高 雄 靖	"	株式会社三菱総合研究 所社長
"	"	播 磨 俊 雄	"	三菱金曜会事務局長

委員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
56. 5. 31	東洋学連絡委 員会委員	植 村 清 二	退 任	国士館大学客員教授
56. 6. 2	"	阿 部 隆 一	就 任	慶應義塾大学教授
"	"	本 田 實 信	"	京都大学教授
56. 7. 13	"	小 川 環 樹	"	京都産業大学教授
"	"	佐 藤 長	"	仏教大学教授

職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
56. 4. 1	研究員(奨励)	山内 昌之	就職	愛知大学客員教授 フランス科学研究センター研究員
"	"	山名 弘史	"	
"	研究員(兼任)	河鱒 源治	移行	
56. 10. 1	外国人研究員	今枝 由郎	就職	
57. 1. 15	"	"	退職	
57. 1. 31	参事	藤崎 美智子	"	
57. 2. 1	"	金子 祐子	就職	
57. 3. 31	研究員(奨励)	神矢 法子	退職	
"	"	山内 昌之	"	
"	"	山名 弘史	"	

受賞

年月日	役職名	氏名	区分	備考
56. 5. 3	理事	徳川 宗敬	叙勲	勲一等瑞宝章
"	"	大槻 文平	"	勲一等旭日大綬章
"	評議員	中田 乙一	"	勲二等旭日重光章
56. 11. 3	研究員(兼任)	坂野 正高	"	紫綬褒章

表彰

年月日	役職名	氏名	区分	備考
56. 11. 19	参事	染谷 コウ	勤続	20年

3. 会 計 報 告

昭和56年度財団法人東洋文庫収支決算書

昭和57年3月31日現在

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
一 般 会 計		一 般 会 計	
経 常 費	79,686	国 庫 補 助 金	47,547
事 業 費	58,378	維 持 会 費 収 入	53,445
		及 寄 付 金 収 入	
		財 産 収 入	7,348
		事 業 収 入	29,604
		雑 収 入	120
小 計	138,064	小 計	138,064
特 別 会 計		特 別 会 計	
文 部 省 科 学 研 究 費	12,870	文 部 省 科 学 研 究 費 補 助 金	12,870
合 計	150,934	合 計	150,934

国庫補助金年度別受入額一覧表

年度別	一般会計	特別会計	合計
22	320 千円	— 千円	320 千円
23	600	—	600
24	720	—	720
25	530	—	530
26	350	1,070	1,420
27	600	150	750
28	1,000	4,500	5,500
29	1,000	1,300	2,300
30	3,850	4,310	8,160
31	6,850	1,940	8,790
32	6,850	2,650	9,500
33	6,850	500	7,350
34	6,765	5,640	12,405
35	6,562	6,010	12,572
36	6,000	3,600	9,600
37	6,000	2,010	8,010
38	6,000	2,785	8,785
39	7,828	3,350	11,178
40	8,382	8,895	17,277
41	9,166 (9,500)	9,160	18,326
42	10,901 (11,500)	7,560	18,461
43	11,500	9,900	21,400
44	13,236 (13,500)	7,300	20,536
45	14,827 (15,300)	6,900	21,727
46	16,659 (17,200)	13,900	30,559
47	18,377 (19,000)	11,000	29,377
48	24,173 (25,000)	3,300	27,473
49	28,383 (29,000)	9,420	37,803
50	30,849 (33,000)	14,040	44,889
51	33,750 (34,500)	0	33,750
52	35,883 (36,632)	10,000	45,883
53	40,509 (41,036)	11,000	51,509
54	44,951 (45,536)	5,500	50,451
55	45,453 (46,447)	9,700	55,153
56	47,547	12,870	60,417

() 内は当初予算額

文部省科学研究費補助金年度別受入一覧表

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額(千円)	
26	研究成果刊行費	ブラーフマナとシュラ ウターストラとの関係	辻 直四郎	400	1,070
	”	日清戦役外交史の研究	岩 井 大 慧	200	
	”	支 那 経 済 史 考 証	和 田 清	390	
	各 個 研 究	古代中国の民族構成の 研究	”	80	
27	研究成果刊行費	明代建州女直史研究	園 田 一 亀	150	
28	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌 文書のマイクロフィル ム撮影並びにその整理 研究	岩 井 大 慧	4,500	
29	”	”	”	1,300	
30	”	”	”	4,000	4,310
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 I	神 田 信 夫	310	
31	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌 文書のマイクロフィル ム撮影並びにその整理 研究	岩 井 大 慧	1,700	1,940
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 II	神 田 信 夫	240	
32	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌 文書のマイクロフィル ム撮影並びにその整理 研究	岩 井 大 慧	1,700	2,650
	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献 の調査研究	鈴 木 俊	580	
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 III	神 田 信 夫	370	
33	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献 の調査研究	鈴 木 俊	500	

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額(千円)
34	機 関 研 究	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩 井 大 慧	4,000
	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献の調査研究	鈴 木 俊	800
	"	日唐法制経済文書の比較研究—正倉院文書と敦煌文書—	仁井田 陞	500
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 N	神田 信夫	340
35	機 関 研 究	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩 井 大 慧	4,800
	総 合 研 究	西域出土古文書・古文獻の調査研究	鈴 木 俊	900
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 V	神田 信夫	310
36	機 関 研 究 B	イスラーム諸国の社会構造の研究	榎 一 雄	1,500
	" C	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩 井 大 慧	600
	総 合 研 究	西域出土古文書・古文獻の調査研究	鈴 木 俊	1,200
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 VI	神田 信夫	300
37	機 関 研 究 B	イスラーム諸国の社会構造	榎 一 雄	1,700
	研究成果刊行費	満 文 老 檔 VII	神田 信夫	310
38	特 定 研 究	イスラーム諸国の社会構造	榎 一 雄	1,700
	研究成果刊行費	日本文・中国文・朝鮮文等逐次刊行物目録	岩 井 大 慧	1,045
	各 個 研 究	李朝仁祖朝に於ける贖還問題と対清貿易	森岡 康	40

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額(千円)
39	特 定 研 究 (2)	イスラーム諸国の社会構造	榎 一雄	1,700
	総 合 研 究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山 定雄	750
	研究成果刊行費	中国地方志連合目録	岩井 大慧	850
	各 個 研 究	北日本における晩期縄文文化の研究	渡辺 兼庸	50
40	機 関 研 究 A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川 孝三	5,400
	特 定 研 究 (2)	イスラーム諸国の社会構造	榎 一雄	1,440
	総 合 研 究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山 定雄	675
	研究成果刊行費	梅原考古資料目録(朝鮮之部)	榎 一雄	550
	"	漢籍叢書所在目録	森 鹿三	830
41	機 関 研 究 A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川 孝三	4,140
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎 一雄	2,700
	総 合 研 究	金石文を主とした朝鮮史の基礎的研究	末松 保和	1,200
	"	パーリ語辞典編集のための基礎的研究	辻 直四郎	300
	研究成果刊行費	漢籍分類目録集部(東洋文庫の部)	"	820
42	機 関 研 究 A	地方志にもとづく中国社会の研究	田川 孝三	3,360
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に対する国際的評価とその背景	榎 一雄	2,700
	総 合 研 究	金石文を主とした朝鮮史の基礎的研究	末松 保和	1,200
	"	パーリ語辞典編集のための基礎的研究	辻 直四郎	300

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額(千円)
43	一 般 研 究 A	唐末以降 1940 年代に いたる中国の地主制の 体系的研究	青 山 定 雄	7,080
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に対 する国際的評価とその 背景	榎 一 雄	2,820
44	一 般 研 究 A	唐末以降 1940 年代に いたる中国の地主制の 体系的研究	青 山 定 雄	2,000
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に対 する国際的評価とその 背景	榎 一 雄	2,820
	総 合 研 究 A	中国周辺諸言語に関す る中国資料の調査研究	辻 直四郎	2,000
	研究成果刊行費	唐 代 の 服 飾	原 田 淑 人	480
45	一 般 研 究 A	唐末以降 1940 年代に いたる中国の地主制の 体系的研究	青 山 定 雄	800
	総 合 研 究 A	中国周辺諸言語に関す る中国資料の調査研究	辻 直四郎	1,600
	海外学術調査	インド・シッキム・ブ ータン・ネパールにお けるチベット文献の調 査と収集	榎 一 雄	4,500
46	一 般 研 究 A	日本を中心とする近代 東アジア国際関係の史 的研究	市 古 宙 三	11,500
	総 合 研 究 A	中国周辺諸言語に関す る中国資料の調査研究	辻 直四郎	1,400
	"	李朝後半期の農村社会 文化	田 川 孝 三	1,000
47	一 般 研 究 A	日本を中心とする近代 東アジア国際関係の史 的研究	市 古 宙 三	5,000
	総 合 研 究 A	李朝後期の農村社会文化	田 川 孝 三	1,600
	海外学術調査	インド・シッキム・ブ ータン・ネパールにお けるチベット文献の調 査と収集	榎 一 雄	4,400

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額(千円)
48	特 定 研 究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	市 古 宙 三	2,500
	海外学術調査	東洋文庫インド・シッキム・ネパール調査隊収集チベット文献の整理と目録作成	北 村 甫	800
49	一 般 研 究 A	南アジアにおける文化変容の研究および資料の収集	榎 一 雄	6,690
	" D	明代の地方行政区割、府・州・県の地理的沿革に関する研究	鶴 見 尚 弘	230
	特 定 研 究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	市 古 宙 三	2,500
50	一 般 研 究 A	イスラム社会の構造に関する歴史学的研究	辻 直四郎	11,500
	" D	敦煌出土寺院関係古文書の基礎的研究	土 肥 義 和	290
	特 定 研 究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	榎 一 雄	2,250
52	一 般 研 究 A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎 一 雄	10,000
53	一 般 研 究 A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎 一 雄	3,000
	総 合 研 究 A	仏典翻訳の対照意味論的研究	辻 直四郎	3,600
	"	李朝に於ける地方自治組織並びに農村社会経済語彙の研究	田 川 孝 三	4,400
54	一 般 研 究 A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎 一 雄	2,000
	総 合 研 究 A	仏典翻訳の対照意味論的研究	辻 直四郎 (原 田 覚)	3,000
	"	李朝に於ける地方自治組織並びに農村社会経済語彙の研究	田 川 孝 三	500

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額(千円)
55	一 般 研 究 A	南アジア史研究資料の基礎的研究	榎 一雄	9,400
	総 合 研 究 A	仏典翻訳の対照意味論的研究	辻 直四郎 (原田 覚)	300
56	一 般 研 究 A	南アジア史研究資料の基礎的研究	榎 一雄	6,900
	総 合 研 究 A	中東諸国における伝統と変革—その基礎的研究	志 茂 碩 敏	4,400
	研究成果刊行費	『解報日報』記事目録Ⅳ—附人名索引—	近代中国研究委員会	1,570

文部省補助金研究者養成費年度別支給一覧表

年度	研究者氏名	研 究 課 題	現 職	補助金 年 額 (千円)	備 考
31	永積 昭	近世東南アジア貿易史の研究—オランダ東印度会社の活動を中心として—	東京大学教授	480	
	高島 稔	インド土地制度史の研究—イギリスの統治下における—	北海道大学教授		
	斯波 義信	中国社会経済史の研究—特に宋代の商業史的研究を中心として—	大阪大学教授		
	本田 實信	蒙古民族史の研究	京都大学教授		
	山根 幸夫	15世紀以降の中国における郷村統治の研究	東京女子大学教授		
	松村 潤	清朝初期史—明・清・蒙古・満州・朝鮮の文献史料の比較検討—	日本大学教授		
	山口 瑞鳳	梵蔵文文法論	東京大学教授		
32	永積 昭	(前 掲 出)	(前掲出)	480	
	高島 稔	(")	(")		
	斯波 義信	(")	(")		
	池田 温	唐代社会経済史研究	東京大学教授		
	山根 幸夫	(前 掲 出)	(前掲出)		
	松村 潤	(")	(")		
	山口 瑞鳳	(")	(")		
33	永積 昭	(前 掲 出)	(前掲出)	480	
	高島 稔	(")	(")		
34	永積 昭	(前 掲 出)	(前掲出)	480	
	高島 稔	(")	(")		
35	生田 滋	近世インドネシア史研究	財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター研究員	480	
	佐々木正哉	近世中国排外運動の研究	明治大学教授		

年度	研究者氏名	研究課題	現職	補助金 年額 (千円)	備考
36	佐々木正哉 金子 良太	(前掲出) サキヤ派史の研究	(前掲出) 財団法人東洋 文庫専任研究 員	480	(昭和 54.3. 15 逝去)
37	金子 良太 酒井 良樹	(前掲出) ベトナムの国際的位置	(前掲出)	480	
38	金子 良太 武田 幸男	(前掲出) 朝鮮中世史研究	(前掲出) 東京大学教授	480	
39	川崎 信定 山口 瑞鳳 山崎 元一	チベットにおける仏教思想の展開—唯識思想を中心とした跡づけ— チベット歴史辞典の編集及びチベット暦—第6代ダライラマ伝説の研究— インド古代史の研究	筑波大学助教授 (前掲出) 国学院大学教授	480	4.1 — 10.31 11.1 — 3.31
40	山口 瑞鳳 山崎 元一	(前掲出) (")	(前掲出) (")	480	
41	山口 瑞鳳 山崎 元一	(前掲出) (")	(前掲出) (")	480	
42	後藤 明 西 義郎	マホメット時代のアラブ社会の考察 ビルマ語の研究	山形大学助教授 愛媛大学教授	600	
43	後藤 明 西 義郎	(前掲出) (")	(前掲出) (")	600	
44	後藤 明 金子 良太	(前掲出) 西域出土チベット文献の研究	(前掲出) (")	600	

年度	研究者氏名	研 究 課 題	現 職	補助金 年 額 (千円)	備 考
45	長 正統 川崎 信定 永田 雄三	李朝後期の日鮮貿易史 チベット仏教古派資料の研究 トルコの近代化に関する 社会経済史的研究	九州大学助教授 (前掲出) 東京外国語大学助教授	1,080	
46	長 正統 川崎 信定 渡辺 紘良	(前 掲 出) (") 宋代地主制の研究	(前掲出) (") 独協医科大学 助教授	1,080	
47	長 正統 川崎 信定 二瓶 幸子 土肥 祐子	(前 掲 出) (") アティーンシャ著「菩提前 燈論」の研究 宋代における市舶制度の 展開	(前掲出) (") 日本学士院事 務官	1,218	4.1 — 6.30 10.1 — 3.31
48	菅野 裕臣 松本 明 花田 宇秋	朝鮮語の歴史的的研究 唐代選挙制度の研究 イスラーム第二次内乱の 研究	東京外国語大学教授 財団法人東洋 文庫専任研究 員	1,620	
49	菅野 裕臣 松本 明 花田 宇秋	(前 掲 出) (") (")	(前掲出) (")	1,620	
50	松本 明 花田 宇秋 長野 泰彦	(前 掲 出) (") ボン教の伝承に関する文 献学的研究	(前掲出) 国立民族学博 物館助手	2,700	
51	長野 泰彦 古垣 光一 志茂 碩敏	(前 掲 出) 宋代官僚制の研究 Gha Zan Khān の諸 改革	(前掲出) 財団法人東洋 文庫司書	3,024	

年 度	研究者氏名	研 究 課 題	現 職	補助金 年 額 (千円)	備 考
52	長野 泰彦	(前 掲 出)	(前掲出)	3,240	4.1 - 9.15 9.16 - 3.31
	原田 覚	吐蕃仏教の研究	東方学院講師		
	古垣 光一	(前 掲 出)			
	佐藤 智水	南北朝・隋・唐初における 邑義について	岡山大学助教授		4.1 - 11.30
	浜下 武志	中国近代経済史研究—金融 問題を中心として—	一橋大学助教授		
53	原田 覚	(前 掲 出)	(前掲出)	3,492	
	浜下 武志	()	()		
	薮 勇造	古代南アラビア史のク ロノロジーの研究	東京大学助手		
54	原田 覚	(前 掲 出)	(前掲出)	3,636	
	並木 頼寿	捻軍史を中心とする清末 華北農村社会の研究	東海大学講師		
	新村 容子	清末地主制の研究			
55	原田 覚	(前 掲 出)	(前掲出)	3,708	
	並木 頼寿	()	()		
	新村 容子	()			
56	神矢 法子	漢唐間における家礼の規 範的展開と礼俗		3,852	
	山内 昌之	トルコの近代社会とイス ラム			
	山名 弘史	清代地主制の研究			

V 役 職 員 名 簿

昭和 57 年 3 月 31 日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理事長代理 専務理事	榎 一 雄	国立国会図書館支部東洋文庫文庫長 財団法人東洋文庫研究部部長 財団法人東洋文庫図書部部長 東京大学名誉教授
理 事	有 光 次 郎	日本芸術院院長 東京家政大学学長
"	市 古 宙 三	中央大学教授 お茶の水女子大学名誉教授
"	大 槻 文 平	三菱鉱業セメント株式会社取締役会長 社団法人日本経営者団体連盟会長
"	小笠原 光 雄	株式会社三菱銀行相談役
"	河 野 六 郎	大東文化大学教授 東京教育大学名誉教授
"	高 垣 寅次郎	日本学士院会員 一橋大学名誉教授 成城学園名誉学園長
"	田 中 正 俊	東京大学教授
"	徳 川 宗 敬	神社本庁統理 社団法人日本博物館協会会長
"	中 村 俊 男	株式会社三菱銀行代表取締役会長 社団法人経済団体連合会副会長
"	松 本 重 治	財団法人国際文化会館理事長

役職名	氏名	現職
理事	護 雅 夫	日本大学教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター所長 東京大学名誉教授
"	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監 事	高 雄 靖	株式会社三菱総合研究所代表取締役社長
"	播 磨 俊 雄	三菱金曜会事務局局長
評 議 員	阿 部 隆 一	慶應義塾大学教授 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫文庫長
"	石 川 忠 雄	慶應義塾塾長 慶應義塾大学学長
"	梅 原 末 治	京都大学名誉教授
"	亀 井 孝	成城大学教授 一橋大学名誉教授
"	神 田 信 夫	明治大学教授
"	坂 本 太 郎	国学院大学教授 日本学士院会員 東京大学名誉教授
"	沢 田 敏 男	京都大学学長
"	清 水 司	早稲田大学総長
"	田 部 文一郎	三菱商事株式会社取締役会長
"	中 嶋 敏	大東文化大学教授 東京教育大学名誉教授
"	中 田 乙 一	三菱地所株式会社取締役会長
"	中 山 素 平	株式会社日本興業銀行相談役
"	長谷川 周 重	住友化学工業株式会社会長
"	日比野 丈 夫	大手前女子大学学長 京都大学名誉教授
"	平 野 龍 一	東京大学総長

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	榎 一 雄	(前 掲 出)
常任委員	山 本 達 郎	(前 掲 出)
委 員	阿 部 隆 一	(前 掲 出)
"	市 古 宙 三	(前 掲 出)
"	岩 生 成 一	日本学士院会員
"	江 上 波 夫	古代オリエント博物館館長 東京大学名誉教授
"	小 川 環 樹	京都産業大学教授 京都大学名誉教授
"	貝 塚 茂 樹	京都大学名誉教授
"	佐 藤 長	仏教大学教授 京都大学名誉教授
"	長 尾 雅 人	日本学士院会員 京都大学名誉教授
"	中 嶋 敏	(前 掲 出)
"	日比野 丈 夫	(前 掲 出)
"	福 井 康 順	早稲田大学名誉教授
"	本 田 實 信	京都大学教授
"	宮 崎 市 定	京都大学名誉教授

3. 名 誉 研 究 員

氏 名	現 職
W. T. デ ・ パ リ イ	コロンビア大学教授
E. O. ライシャワー	ハーヴァード大学教授，元駐日アメリカ大使
G. ト ウ ッ チ	ローマ大学教授，イタリア中東亞研究所所長
A. フォン・ガベイン	前ハンブルグ大学教授
A. B. デイヴィス	シドニー大学教授
J. デ ェ ル ネ	第7パリ大学教授，フランス国立高等研究院研究指導員
H. フ ラ ン ケ	ミュンヘン大学教授
L. ベ テ ッ ク	ローマ大学教授

4. 職 員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	部 長	榎 一 雄	(前 掲 出)
	部 長 代 理	護 雅 夫	(前 掲 出)
	部 長 補 佐	田 中 正 俊	(前 掲 出)
	研 究 顧 問	岩 村 忍	京都大学名誉教授
	"	村 田 治 郎	京都大学名誉教授
	研究員(兼任)	青 山 定 雄	聖心女子大学講師
	"	荒 松 雄	東京大学東洋文化研究所教授
	"	池 田 温	東京大学東洋文化研究所教授
	"	市 古 宙 三	(前 掲 出)
	"	岩 生 成 一	(前 掲 出)
	"	宇都木 章	青山学院大学教授
	"	梅 原 末 治	(前 掲 出)
	"	海 野 一 隆	大阪大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	越 智 重 明	九州大学教授
	"	岡 田 英 弘	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所教授
	"	亀 井 孝	(前 掲 出)
	"	川 崎 信 定	筑波大学助教授
	"	河 緒 源 治	愛知大学客員教授
	"	神 田 信 夫	(前 掲 出)
	"	菊 池 英 夫	北海道大学教授
	"	北 村 甫	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所教授
	"	草 野 靖	熊本大学教授
	"	河 野 六 郎	(前 掲 出)
	"	後 藤 明	山形大学助教授
	"	後 藤 均 平	立教大学教授
	"	佐 伯 富	京都大学名誉教授
	"	佐 藤 次 高	東京大学助教授
	"	酒 井 憲 二	図書館情報大学教授
	"	斯 波 義 信	大阪大学教授
	"	滋 賀 秀 三	東京大学教授
	"	清 水 宏 祐	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所助手
	"	周 藤 吉 之	東洋大学講師
	"	末 松 保 和	学習院大学名誉教授
	"	関 野 雄	東京大学名誉教授
	"	田 川 孝 三	日本大学講師
	"	田 中 時 彦	東海大学教授
	"	田 中 正 俊	(前 掲 出)
	"	竺 沙 雅 章	京都大学教授
	"	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員(兼任)	土 肥 義 和	国学院大学助教授
	"	鳥 海 靖	東京大学助教授
	"	中 嶋 敏	(前 掲 出)
	"	永 田 雄 三	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所助教授
	"	原 實	東京大学教授
	"	坂 野 正 高	国際基督教大学教授
	"	藤 枝 晃	京都大学名誉教授
	"	本 田 實 信	(前 掲 出)
	"	松 壽 誠 達	大正大学助教授
	"	松 村 潤	日本大学教授
	"	三根谷 徹	国学院大学教授
	"	護 雅 夫	(前 掲 出)
	"	森 岡 康	
	"	山 口 瑞 鳳	東京大学教授
	"	山 崎 元 一	国学院大学教授
	"	山 根 幸 夫	東京女子大学教授
	"	山 本 達 郎	(前 掲 出)
	"	渡 辺 紘 良	独協医科大学助教授
	研究員(専任)	松 本 明	
	"	鈴 木 立 子	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部 長	榎 一 雄*
	主 査	渡 辺 兼 庸*
	副主査	大 塚 祐 子*, 小 山 勲*, 竹之内 信 子*
	"	児 野 寿満子, 広 瀬 洋 子*
	係 員	浅 野 千 秋, 池 田 直 人, 小 林 輝 男*
	"	志 茂 碩 敏, 西 蘭 一 男
総務部	部 長	早 船 艶 雄
	課 長	平 野 豊
	係 員	稲 村 優, 金 子 祐 子, 染 谷 コ ウ*
	"	光 田 憲 雄, 谷 治 嘉 紀, 吉 田 男佐武

* 印は国立国会図書館支部東洋文庫職員

5. 臨時職員

部 名	氏 名
研究部	飯島 明子, 飯田 隆子, 石川 寛, 石川むつみ
	上杉 隆英, 小田 光恵, 大井 剛, 岡田真美子
	勝野千恵子, 金沢 篤, 小松 久男, 権太 澄子
	清水 海隆, 高橋 明, 谷沢 淳三, 津崎 浩一
	鍋谷 祐子, 蓮沼 龍子, 八尾師 誠, 引田 弘道
	松本 隆, 矢板 秀臣, 渡辺 章悟
図書部	伊藤 公夫, 磯崎 和子, 小沢 利彦, 兼田信一郎
	熊谷 哲也, 小牧 昌平, 島倉 透, 清水 一枝
	堂前 敏昭, 花田 宇秋, 山本佳世子, 渡辺 修

(昭和56年4月1日～昭和57年3月31日間に在籍した者)

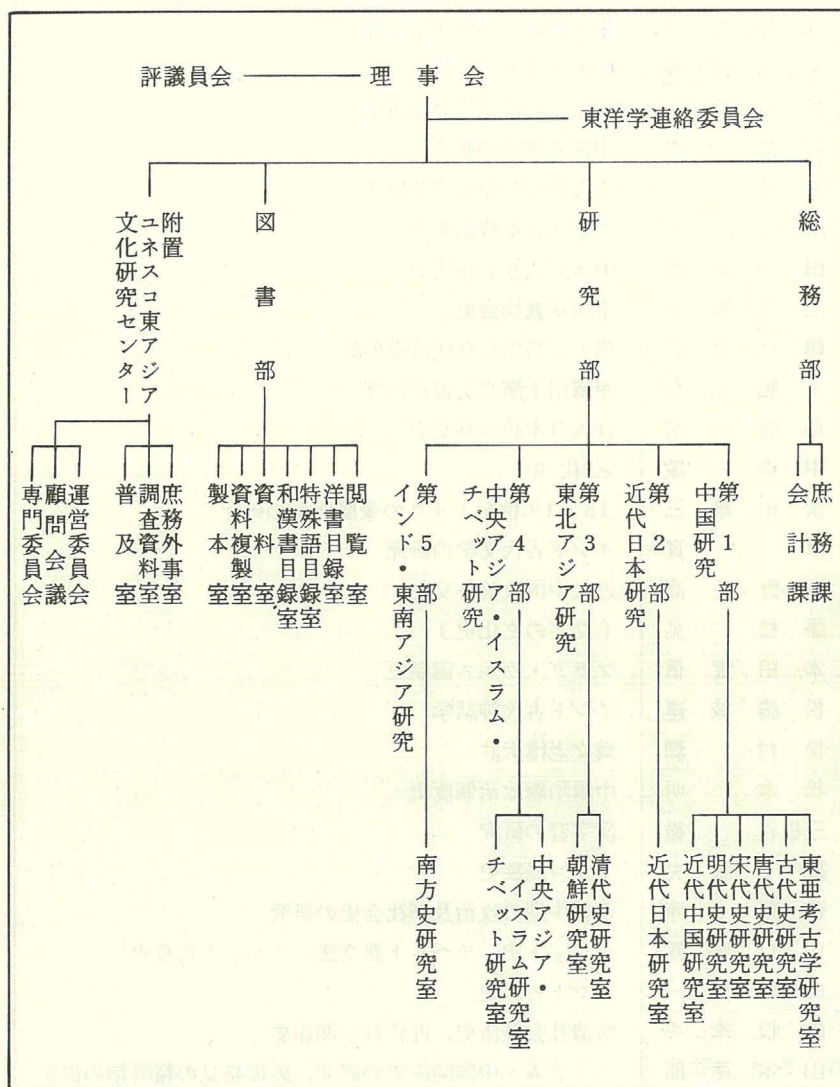
財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧

(昭和57年3月31日現在)

研究員名	主たる研究課題
青山定雄	宋代官僚の研究
荒松雄	南アジア史における民族・宗教と国家
池田温	中国古代史, 古代東アジア文化交流史
市古宙三	太平天国及び中国共産党の研究
岩生成一	17世紀インドネシア移住日本人の活動
宇都木章	春秋時代政治史
梅原末治	(殷周青銅器時代論)
海野一隆	東洋地理・地図学の研究
榎一雄	職貢図の研究
越智重明	漢魏晋南北朝史
岡田英弘	満文老檔訳註
亀井孝	日本語の歴史的研究
川崎信定	チベット仏教の展開
河鱈源治	太平天国史の研究
神田信夫	清朝興起史
菊池英夫	唐宋時代の行政および法制(特に軍制)
北村甫	現代チベット語諸方言の記述的研究
草野靖	中国近世の租佃制度
河野六郎	中期朝鮮語の研究
後藤明	イスラム社会と政治
後藤均平	ベトナム・中国関係史及び中国古代史の研究
佐伯富	中国塩政史研究
佐藤次高	イスラム中世社会経済史の研究
酒井憲二	日本語の史的研究
斯波義信	中国社会経済史
滋賀秀三	中国法制史 — 法と訴訟 — の研究
清水宏祐	セルジューク朝時代のイラン

研 究 員 名	主 た る 研 究 課 題
周 藤 吉 之	宋・高麗との関係史再究
末 松 保 和	好太王とその時代
鈴 木 立 子	元朝における社会経済史
関 野 雄	中国考古学の研究
田 川 孝 三	李氏朝鮮社会経済史研究
田 中 時 彦	(近代日本政治史)
田 中 正 俊	中国近代社会経済史
竺 沙 雅 章	中国宗教社会史
鶴 見 尚 弘	明・清時代社会経済史の研究
土 肥 義 和	西域出土漢文文書の研究
鳥 海 靖	近代日本政治外交史
中 嶋 敏	宋 代 史
永 田 雄 三	18・19世紀トルコの豪農地主の研究
原 實	インド古代文学の研究
坂 野 正 高	近代中国政治外交史
藤 枝 晃	(文字の文化史)
本 田 實 信	フラグ・ウルス国制史
松 濤 誠 達	インド古代神話学
松 村 潤	満文老檔訳註
松 本 明	中国隋唐政治制度史
三根谷 徹	漢字音の研究
護 雅 夫	トルコ民族史
森 岡 康	李朝中期の政治及び社会史の研究
山 口 瑞 鳳	チベット史, チベット語文法, チベット仏教史
山 崎 元 一	インド古代史
山 根 幸 夫	明清社会経済史, 近代日中関係史
山 本 達 郎	ベトナム・中国関係史の研究, 敦煌発見の籍帳類の研究
渡 辺 紘 良	宋代社会史の研究

財団法人東法文庫組織図



VI 東 洋 文 庫 維 持 会

本維持会は、財団法人東洋文庫の事業を援助発展させることを目的として結成されたもので、現在の会員は下記の通り 44 社である。会員には普通会員（個人）、賛助会員（個人又は法人団体）、及び特別会員があり、特別会員を除き年会費（普通会員 1 口 5 千円以上、賛助会員 1 口 50 千円以上）を納入する。

財団法人東洋文庫維持会会員名簿

三 菱 重 工 業 株 式 会 社	三 菱 アルミニウム 株 式 会 社
株 式 会 社 三 菱 銀 行	三 菱 化 工 機 株 式 会 社
旭 硝 子 株 式 会 社	三 菱 瓦 斯 化 学 株 式 会 社
三 菱 化 成 工 業 株 式 会 社	三 菱 建 設 株 式 会 社
三 菱 金 属 株 式 会 社	三 菱 自 動 車 工 業 株 式 会 社
三 菱 鉱 業 セ メ ン ト 株 式 会 社	三 菱 自 動 車 販 売 株 式 会 社
三 菱 地 所 株 式 会 社	三 菱 樹 脂 株 式 会 社
三 菱 商 事 株 式 会 社	三 菱 製 鋼 株 式 会 社
三 菱 石 油 株 式 会 社	三 菱 製 紙 株 式 会 社
三 菱 電 機 株 式 会 社	三 菱 モ ン サ ン ト 化 成 株 式 会 社
三 菱 レ イ ヨ ン 株 式 会 社	三 菱 油 化 株 式 会 社
日 本 郵 船 株 式 会 社	株 式 会 社 伊 勢 丹
三 菱 信 託 銀 行 株 式 会 社	エ ー ザ イ 株 式 会 社
三 菱 倉 庫 株 式 会 社	小 田 急 電 鉄 株 式 会 社
明 治 生 命 保 険 相 互 会 社	株 式 会 社 西 武 百 貨 店
株 式 会 社 竹 中 工 務 店	戸 田 建 設 株 式 会 社
千 代 田 化 工 建 設 株 式 会 社	日 本 信 託 銀 行 株 式 会 社
東 京 急 行 電 鉄 株 式 会 社	株 式 会 社 日 立 製 作 所
日 興 証 券 株 式 会 社	富 士 紡 績 株 式 会 社
麒 麟 麦 酒 株 式 会 社	本 田 技 研 工 業 株 式 会 社
東 京 海 上 火 災 保 険 株 式 会 社	精 工 産 業 株 式 会 社
日 本 光 学 工 業 株 式 会 社	
三 菱 ア セ テ ー ト 株 式 会 社	
	計 44 社

（昭和 57 年 3 月 31 日現在 敬称略・順不同）

Ⅶ 財団法人東洋文庫附置

ユネスコ東アジア文化研究センター事業

1. 調査研究事業

1-A. 長期調査研究「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」

【年度】 10ヶ年計画第7年度

【概要】 本計画は、本来センターがユネスコ本部に提案し、1974（昭和49）年の第18回ユネスコ総会で採択された研究計画である。この計画実施のために1976（昭和51）年3月に、センターが受入機関となって東京で開催された「アジア地域文化研究機関代表者会議」の決議に基づいて、各国で調査研究が進められているが、センターでは、本年度、次の四つの研究テーマによる調査研究を実施した。

1-A-1 「アジア諸文化の特色」（5年計画第5年度）

【概要】 日本を含むアジア各地の伝統的芸術・芸能等の文化遺産の現状及び由来を調査し、それらの現代における意味を探ると同時に、それらの比較研究をおこなうために必要な概念を分析・整理することを目的としている。

【専門委員】 小泉文夫（委員長）、河竹登志夫、田口安男、前野 崑、松村禎三。

【事業内容】

研究会

4月18日：喜多川周之「下町の心と形」

10月6日：林 京平「日本の地芝居」

1月14日：井 狩 弥 介「スリランカの仮面」

横道萬里雄「日本の能面」

2月27日：中間総括討論および来年度事業打合せ

現地調査

7月5日：群馬県勢多郡赤城村および富士見村に点在する農村舞台、衣裳倉

庫の現状調査（協力：赤城村文化財調査委員須田武雄ほか）。

その他

事業に必要な関係資料（書籍・16mmフィルム）を整備した。

1-A-2 「アジア諸国における国民統合の理念とその機能」（5年計画第3年度）

【概要】 流動しつづけるアジア諸国において、国民を統合するための理念が形成される契機及びその内容、実際の機能のしかたを明らかにすることを目的とし、主として社会科学的観点から研究を進める。

【専門委員】 衛藤藩吉（委員長）、古賀正則、白石 隆、平野健一郎、広瀬久和。

【事業内容】

研究会

12月25日：池端雪浦「初期カティプーナンの表現様式と革命観——フィリピン革命のパラダイム——」

その他

各委員ごとの見解整理。

1-A-3 「現代アジア諸国におけるマスコミュニケーションと大衆文化」（5年計画第3年度）

【概要】 アジア諸国において、各国の文化的価値観の形成に重要な役割をもつラジオ・新聞・テレビ・雑誌などのマスコミュニケーションが、実際に大衆文化にいかなる要素を送りこんでいるかを明らかにすることを目的とし、主として人文科学的研究をおこなう。

【専門委員】 辻村 明（委員長）、伊藤慎一、稲増龍夫、岩男寿美子、岡部慶三、佐田一彦

【事業内容】

研究会

5月26日：伊藤慎一・岡部慶三「東南アジア予備調査報告」

7月 9日：斎藤鎮男「インドネシア」

9月16日：第二次東南アジア予備調査打合せ

10月28日：辻村 明・稲増龍夫「第二次東南アジア予備調査報告」

12月 8日：東南アジア現地本調査のための討議

3月10日：東南アジア諸国のマスコミ関係資料の検討

海外実地調査

調査地：タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン

調査者：辻村 明、稲増龍夫、生田 滋

調査期間：昭和56年9月23日～10月4日

調査内容：各地における研究者と研究機関の実態把握及びマスコミュニケーションと大衆文化動向の視察。なお、第一次予備調査で対象とした地域・機関との重複は避けた。

1-A-4. 「アジア諸国における企業経営の社会的性格」（5年計画初年度）

【概要】 変容を遂げつつあるアジア諸国において、都市を中心として展開する人為的な集団すなわち企業をとりあげ、そこに反映されている伝統的な文化価値を分析・整理することによって、諸地域の現代的特色を追究しようとするものである。本年度は人選と具体的テーマの検討をおこなった。

1-B. 一般調査研究

1-B-1. 「東アジア文化研究」

【概要】 東アジア文化の形成に欠くことのできない要素としての「青銅器文化」と「稲作文化」に注目し、資料の収集・整理と共に調査研究を進める。

1-B-1-a. 「中国青銅器文化研究の現状調査」（4年計画初年度）

【事業内容】

中国青銅器を中心に、シベリア・中央アジアも含めて、関係論文・報告書のリストアップをおこなった。

1-B-1-b. 「東アジアの稲作文化」（5年計画第4年度）

【専門委員】 渡部忠世（委員長）、飯島 茂、大林太良、佐々木高明、高谷好一

【事業内容】

専門委員会

8月31日：与那国島調査の打合せ

3月6日：与那国島調査の整理

現地調査

調査地：沖縄県与那国町

調査者：渡部忠世，飯島 茂，大林太良，佐々木高明，高谷好一，松山利夫，
田中耕司，石垣博孝，安溪遊地，高谷紀夫，生田 滋

調査期間：1. 昭和56年11月24日～12月1日（飯島 茂，高谷紀夫を除く）

2. 昭和57年3月14日～3月20日（飯島 茂，高谷紀夫のみ）

調査内容：与那国島の伝統的稲作技術および稲作の現状と水田遺跡の観察。稲作
に関連する儀礼その他の文化に関する聞き取り。資料の収集。

1-B-2. 「アジア地域における文化研究機関の実態とその活動に関する調査」 （4年計画第3年度）

【概要】 アジア諸国の文化研究機関の活動の実態を知することは、地域研究の拡充、国際協力の充実強化のための基礎的な条件である。そのため、アンケート調査等を通じて得た情報を英文で公開することを目的としている。

【事業内容】

韓国における人文科学・社会科学の研究機関および学会の調査方法，対象を検討し，計約500ヶ所に向けてアンケート用紙を発送した。

1-C. 特別調査研究「現代アジアの社会的，文化的環境の現状に関する基礎的調査」（7年計画第3年度）

【概要】 この特別調査研究は，アジア諸国の文化・社会について実験的で，かつ総合的な方法を採用しながら，アジア地域が共通にもっている特質を研究し，アジア地域の実情の把握につとめようとするものである。

1-C-1. 「アジア諸国におけるエリートに関する社会科学的総合調査」

【事業内容】

専門家会議

3月15日：白石 隆「インドネシア、マレーシア、タイの軍部について」

1-C-2. 「アジア諸国における大衆文化——特に口碑伝承の調査——」

【事業内容】

専門家会議

1月9日：徳永宗雄「インドにおける口承文芸の諸類型」

2. 学術交流及び普及，ドキュメンテーション活動

2-A. 学 術 交 流

2-A-1. 外国人研究者の招聘

リム・プイ・フエン，東南アジア研究所図書館長 Lim Pui Huen, Librarian, Institute of Southeast Asian Studies, Singapore

招聘期間：昭和56年10月20日—11月2日

2-A-2. 研究者および職員の海外派遣・出張（日付順）

永田雄三：昭和56年9月17日—30日，下記2-C参照。

辻村 明・稲増龍夫：昭和56年9月23日—10月4日，上記1-A-3参照。

生田 滋：昭和56年9月23日—10月15日，上記1-A-3参照。なお，

国際公文書館会議ガイドブック編集専門家会議出席も兼ねた。

2-A-3. 外国人研究者，各種専門家に対する便宜供与

今年度，上記の外国人研究者（2-A-1）以外でセンターを訪れ，センターが情報提供等の便宜を供与した外国人研究者は以下のとおりである。

- Dr. and Mrs. Harold E. Henkes Professor and Chairman, Department of Ophthalmology, Erasmus University, Rotterdam
- Dr. and Mrs. L. H. van der Tweel Professor, Laboratory of Medical Physics, University of Amsterdam
- Mr. Karol Kutka Slovak Academy of Sciences, Department of Oriental Studies, Bratislava
- Dr. Vladimír Gelbič Third Secretary, Embassy of the Czechoslovak Socialist Republic, Tokyo
- Prof. Hilger Konrad Professor, Higashi Nihon Gakuen University, Onbetsucho, Hokkaido
- Dr. Ruşen Keleş Professor, Faculty of Political Science, Ankara University
- Dr. Bozkurt Güvenç Professor, Hacettepe University, Ankara, and Visiting Professor, Tokyo University of Foreign Studies
- Dr. Dinh-Hoa Nguyen Director, Center for Vietnamese Studies, Southern Illinois University
- Mr. Liu Jian Researcher, Chinese Academy of Social Sciences, Linguistics and Philology Institute, Peking
- Mr. Xiong Zhen-hui Researcher, Chinese Academy of Social Sciences, Linguistics and Philology Institute, Peking
- Dr. Talat Tekin Professor of Turkic Languages,

Mr. William L. Swan	Hacettepe University, Ankara Instructor, Kanda Gaikokugo Gakuin, Tokyo
Prof. Zhan Bo-hui	Professor, University of Wuhan, and Visiting Professor, University of Tokyo
Mr. Choo Yam-wai	Japanese Resources Section, Central Library, National Univer- sity of Singapore
Dr. Vladimir F. Gening	Vice-Director, Institute of Archaeology, Academy of Sciences of Ukraine SSR, Kiev
Dr. V. P. Kurylev	Researcher, Institute of Ethno- logy, Academy of Sciences of USSR, Leningrad
Dr. Seviyan I. Vainshtein	Researcher, Institute of Ethno- logy, Academy of Sciences of USSR, Leningrad
Dr. M. V. Kryukov	Chief of the Department, Insti- tute of Ethnology, Academy of Sciences of USSR, Leningrad
Dr. Blussé van Oud-Alblas	Lecturer, History Department, Leiden University
Ms. Chau Mun Lau	Bibliographer of China, Univer- sity of Hawaii Library
Mr. A. B. Lapian	Researcher, National Institute of Economics and Social Research, Jakarta
Mr. John A. Traksel	Assistant Managing Director, In- terdocumentation Company, Leiden

2-B. 文献目録等の作成

2-B-1. 「日本における近代中国研究の現状」調査

【連絡委員】 市古宙三（代表）、安藤彦太郎、今堀誠二、衛藤藩吉、川勝 守、河地重蔵、菊池英夫、鈴木中正、田中正俊、藤本 昭、堀川哲男、山田辰男。

【事業内容】 例年通り、アンケート方式により国内の近代中国研究者の姓名、住所、現職、専門領域、業績の調査をおこない、カード化した。このカードは東洋文庫近代中国研究室参考図書室で研究者への便に供されているほか、ロンドンの China Quartary に送付されたうえで、そのリスト刊行に利用されている。

2-B-2. 「日本における中央アジア研究文献目録」の編集（5年計画第4年度）

昨年度に引き続き、日本人による中央アジア関係の研究文献目録の編集にあたり、基礎カードの作成をすすめた。また、2月28日に専門家会議を開催して、編集に関する全般的な検討をおこなった。

2-B-3. 「日本におけるアジア（含日本）研究者一覧」の編集

下記3-Dのシリーズ完成に付随すべきものとして、ひきつづき編集を進めた。

2-C. 資料の調査・収集および整理

本事業は、アジア諸国においてアジア諸言語によって書かれたアジアの社会・文化・歴史に関する学術書・学術雑誌等の刊行物の出版状況を調査して情報を収集するほか、今後のアジア研究に必要な書籍・定期刊行物・文献などを収集し整理することを目的としている。ここ数年来、とくに世界の注目の的となっている中東の研究に関係する、アラビア語・トルコ語・ペルシア語文献の調査・収集を進めてきている。

本年度は、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授の永田雄三氏をトルコ共和国へ派遣し、アンカラ国立図書館所蔵資料のマイクロフィルム撮影について交渉し、基本的同意を得た。その他、トルコ歴史学協会等における刊本・写本資料の調査をおこない、さらに、トルコ語書籍約560冊を購入した。また、ア

ラビア語書籍約 40 冊，ペルシア語新聞 Keihan の 1978－1980 年分をそれぞれ別個に収集し，整理を進めた。これらは従来通り東洋文庫に於いて研究者の閲覧に供される。

2－D. 語学講習会の開催

チベット語講習会

期 間：昭和 56 年 7 月 20 日（月）－ 8 月 28 日（金）毎週月曜日から金曜日 午前 9 時 30 分より 12 時 30 分まで。

会 場：電通生協会館（駒込）

講 師：北村 甫，星 実千代，テンパ＝ゲルツェン

修了者：28 名

2－E. 図書の寄贈及び交換

本年度も従来どおり，センターの出版物を国内の大学，研究所，在日各国公館など約 200 個所，国外の大学，研究所，国際的機関など約 300 個所に定期的に寄贈した。また国内の研究機関約 50 個所，国外の研究機関約 100 個所から定期的に出版物の寄贈を受けた。

3. 出版物の作成

3－A. 機関誌 East Asian Cultural Studies の刊行

本年度は，Vol. XXI, Nos. 1－4 合併号（109 ページ）を刊行した。内容は，53 年度に終了した「アジア諸国の教育の目標」でとりまとめた報告書の後半部分である。タイトルは，『Tradition and Modern Education in Asian Countries』で，その目次は以下のとおりである。

The Movement to Restore Educational Prerogatives in Manchuria during the 1920s: One Aspect of Nationalism in Modern Chinese Education, by Abe Hiroshi

China's Renewed Quest for Modernization, by Kobayashi Fumio

Tradition and Change in the Education of the Republic of Korea: Focusing on Middle School Textbooks of Moral Education, by Umakoshi Toru

A Reconsideration of Mori Arinori's Educational Policies, by Sato Hideo

3-B. アジア史料叢刊 (英文)

『ラーマー世年代記』第2巻註釈篇の編集および、チャン＝ヴァン＝ザップ著、グエン＝カク＝カム翻訳『ベトナム書誌』の英文編集を継続した。

3-C. 東アジア文化研究叢書 (英文)

3-C-1.

本シリーズの№ 22 として、黄 福慶著『清末留日学生』(Huang Fu-ching, Chinese Students Studied in Japan during the Late Ch'ing Period) を刊行した。目次は以下のとおり。

Preface

Acknowledgment

1. Background to the Period
2. The Beginning of Students Going to Study in Japan
3. Special Qualities of the Students and How They Fitted into China's Policy
4. Student Life and Study Environment
5. Cultural Activities

6. Political Activities

7. Conclusion

Appendixes

Note

Bibliography

Index

3-C-2.

本シリーズの№4, Industrialization of Japan (by Ichiro Nakayama)と, №9, The Thirteenth Dalai Lama (by Tōkan Tada)の2点を増刷した。

3-D. 文献目録等の出版

『日本における東洋学の回顧と展望』の一部を増刷した。

4. 事業報告

A. 運営委員会・顧問会議

運営委員会

- 前期 開催日 昭和 56 年 5 月 19 日（火）
- 報 告 1. 昭和 55 年度事業報告及び決算報告について
2. 財団法人東洋文庫の建物改築について
- 議 題 1. 昭和 56 年度事業計画案及び予算案について
2. 1981—83 年度ユネスコ補助金について
3. 運営委員及び顧問の改選について
- 後期 開催日 昭和 56 年 11 月 17 日（火）
- 報 告 1. 昭和 56 年度事業及び会計中間報告について
- 議 題 1. 昭和 57 年度概算要求について

顧問会議

- 開催日 昭和 56 年 5 月 19 日（火）
- 報 告 1. 昭和 55 年度事業報告及び決算報告について
2. 財団法人東洋文庫の建物改築について
- 議 題 1. 昭和 56 年度事業計画案及び予算案について
2. 1981—83 年度ユネスコ補助金について
3. 運営委員及び顧問の改選について

B. 役員異動

異動月日	役職名	氏 名	就退区分	備 考
56. 4. 7	運営委員	菊地勇次郎	退 任	前東京大学史料編纂所所長
56. 4. 8	”	今 枝 愛 眞	就 任	東京大学史料編纂所所長
56. 4. 17	顧 問	吉 識 雅 夫	”	日本ユネスコ国内委員会会長

C. 受賞

年月日	役職名	氏名	区分	備考
56.11.9	運営委員	前田陽一	叙勲	勲二等瑞宝章

D. 表彰

年月日	役職名	氏名	区分	備考
56.11.19	研究員 調査資料 室長	生田滋	勤続	財団法人東洋文庫より勤続20年

E. 会計報告

昭和56年度ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

(昭和57年3月31日現在)

支出の部		収入の部	
科目	金額(千円)	科目	金額(千円)
経常費	54,858	国庫補助金	80,019
人件費	50,301	ユネスコ援助金	550
事務費	4,557	財産収入	12
事業費	26,707	雑収入	984
研究経費	9,492		
長期調査研究費	4,914		
一般調査研究費	4,034		
特別調査研究費	544		
研究者の交流及び 普及活動経費	2,670		
研究文献の収集・目録の 作成・翻訳出版等経費	14,545		
計	81,565	計	81,565

5. 役 職 員 名 簿

昭和 57 年 3 月 31 日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりである。

A. 所 長

護 雅 夫

副 所 長

松 村 潤

B. 運 営 委 員

氏 名	現 職
伊 藤 良 二	ユネスコ・アジア文化センター理事長
今 枝 愛 眞	東京大学史料編纂所所長
岩 生 成 一	日本学士院会員
梅 棹 忠 夫	国立民族学博物館館長
岡 野 澄	東京工業高等専門学校名誉教授
大 崎 仁	文部省学術国際局審議官
尾 高 邦 雄	東京大学名誉教授
北 村 甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
高 田 修	東京国立文化財研究所名誉研究員
伊 達 邦 美	国際交流基金専務理事
中 根 千 枝	東京大学東洋文化研究所所長
中 村 元	東方学院長・東京大学名誉教授
服 部 四 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
福 井 康 順	早稲田大学名誉教授
福 永 光 司	京都大学人文科学研究所所長
藤 田 勇	東京大学社会科学研究所所長
前 田 陽 一	国際文化会館専務理事・東京大学名誉教授
森 崎 久 寿	アジア経済研究所所長
山 本 達 郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
山 本 学	文部省学術国際局ユネスコ国際部部长
渡 部 忠 世	京都大学東南アジア研究センター所長

C. 顧問

氏 名	現 職
林 健太郎	国際交流基金理事長
前 田 充 明	財団法人文教協会会長・城西大学名誉学長
松 浦 泰次郎	日本ユネスコ国内委員会事務総長
吉 識 雅 夫	日本ユネスコ国内委員会会長

D. 参 与

氏 名	現 職
青 山 秀 夫	京都大学名誉教授
織 田 武 雄	"
田 村 実 造	"
長 尾 雅 人	"
丸 山 眞 男	東京大学名誉教授
三 上 次 男	"
宮 崎 市 定	京都大学名誉教授
宮 本 正 尊	東京大学名誉教授

E. 専門員

Christian Ashley Daniels

F. 職 員

職 名	氏 名
調 査 資 料 室 長	生 田 滋
普 及 室 長	外 池 明 江
庶 務 外 事 室 長	松 前 義 治
研 究 員	梅 村 坦 , 本 庄 比 佐 子
研 究 助 手	設 楽 靖 子 , 秩 父 良 子 , 引 田 葉 子
係 員	直 井 靖 夫 , 西 山 敬 子

G. 臨 時 職 員

昭和 56 年 4 月 1 日から昭和 57 年 3 月 31 日に至る間に臨時職員として在籍した者は、以下のとおりである。

内野 佳子, 宇野 伸浩, 岡 洋樹, 片山 章雄, 私市 正年
 久野 正子, 清水 敏江, 田中 明良, 長縄 誓子, 保坂 修司
 宮田 律

財団 東洋文庫年報 昭和56年度
法人

昭和57年9月25日 発行

(非 売 品)

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番地21号

財団法人 東 洋 文 庫

榎 一 雄

印刷者 東京都板橋区高島平3-11-6-1108

有限会社 日 本 興 業 社

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番地21号

財団法人 東 洋 文 庫

本書は昭和57年度財団法人東洋文庫に対する文部省
補助金の一部によって刊行されたものである。

